

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和元年度執行）

秦野地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分種・協働課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	140	電気使用料 24 設備保守点検委託料 116	安全で安心な暮らしの実現に向け設置した防犯カメラの維持管理を行う。	交差点での事故・事件に関する情報収集の手段がなかった。	交差点での情報収集ができるようになった。	防犯カメラがあることにより、事件の抑止効果が期待できる。また、事故があった時に客観的な情報源になっている。	監視地域のカバー率がUPしたが、まだカバーできていない地域が3割ほどある。今後の課題として池田市警察と協議を詰めていきたい。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。	本年度もはたのひろば兼事務所にかかる整備が行われ、より一層拠点施設としての機能が向上したものと認識。更なる地域の活性化に寄与することを期待する。また各団体との連携の中で、自主防災組織の結成等に期待。	継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む。	危機管理課 自治振興費
地域防災体制強化等事業	198	消耗品費 139 修繕料 59	南畑公園に設置した防災備蓄倉庫を活用するため、収納用品を整備する。	南畑公園の自主防災倉庫の収納スペースの不具合	棚を設置、収納用品を購入し整理整頓が可能となった	秦野地域の防災拠点とし、自主防災組織の活動の支援を行えた	防災倉庫を中心としてさらに活動を支援するとともに地域住民の自主防災意識の向上をめざす				危機管理課 災害対策費
地域内会館備品整備事業	20	庁用器具費 20	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。	南畑会館のホワイトボードが古く使用に耐えない	買い替えにより快適使用できるようになった	利用しやすい	会館の利便性が向上したものを、公共施設の備品の運営・維持・管理をより一層充実していきたい。				地域分種・協働課 地域集会所施設管理費
地域内会館設備改修事業①	1,383	修繕料 1,383	南畑会館のトイレを洋式化し、利便性を向上させる。	南畑会館のトイレが和式のため特に高齢者の使用に支障がある。男女共用のため使用しづらい	洋式化、及び男性用と女性用を分けた	洋式にしたことにより高齢者にも使いやすくなり、男性用と女性用を分けたことで使用しやすくなった	会館が地域住民にとって利用しやすい施設となるよう住民の意見を取り入れて改修していきたい				地域分種・協働課 地域集会所施設管理費
地域掲示板設置事業	557	修繕料 511 PA・セナ活用事業委託料 46	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるための掲示板を、地域団体と共に使用するとともに維持・管理・運営を行う。	石造住宅内は建て替えのため撤去していた事務所前には掲示板がなかった	石造住宅内、事務所前に新設	石造住宅は地域の中央付近に設置、近隣の方の情報提供の場となっている。事務所前は事務所のイベントなど事務所に関係する情報提供を中心に活用している	設置した掲示板の管理について地域住民と考えていきたい				地域分種・協働課 自治振興費
AED管理事業	10	消耗品費 10	地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	地域内会館に設置したAEDの消耗品交換の必要性がある	AEDバッテリーとパッドの交換	AEDバッテリー・パッド交換した	地域住民へAED講習会などへの参加の呼びかけ				健康増進課 保健衛生事務費
秦野小学校の金管クラブ支援事業	349	校用器具費 349	秦野小学校の金管クラブの楽器更新を支援し、子どもたちの意欲向上を促し、地域と小学校の交流を促進する。	秦野小学校の金管クラブの楽器が古くなり演奏に支障をきたす	アルトホルン2台購入	秦野小学校の金管クラブの楽器を購入したことにより演奏しやすくなり子どもたちの意欲向上を促進できた。あおぞらdeはたのフェスタや譲渡コンサートで演奏し好評であった	教育委員会と協議し必要な備品整備に協力し、子供達の健全な育成に貢献していきたい。教育委員会とのコミュニケーションをより強化していきたい。				総務・学務課 学校管理費
秦野小学校体育館整備事業	1,037	消耗品費 45 修繕料 992	秦野小学校体育館の床の塗装を行い、地域の諸団体が利用しやすいようメンテナンスを行う。	体育館の床がささくれ立ち危険であった清掃用具の不足	体育館の床の磨きと塗装をしたモップの購入	床の塗装時にラインも引き直したので非常にきれいになり、けがの危険性、改善に貢献できた。使用後の清掃意欲も向上した	教育委員会と協議し必要な備品整備に協力し、子ども健全な育成や利用者の利便性に貢献していきたい。教育委員会とのコミュニケーションをより強化していきたい。				総務・学務課 学校管理費
市民レクリエーション大会事業	280	行事報償金 280	地域のスポーツ振興会と子供会等の地域団体が開催する事業を支援する	毎年度地域の協力も受け、レクリエーション大会の準備・補助を行っている。	レクリエーション大会のプログラムパンフレットの作成・配布及び開催の補助を行いました。	地域・こども会の協力と、備品 TENT 等の貸し出しによりレクリエーション大会円滑開催に貢献できた。	自治会、こども会入会者の減少は止まらない。今後とも地域住民の参加率向上を図り、自治会、こども会等の発展につなげていきたい。				生涯学習推進課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	420	補助金 420	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民に知らせるため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	「秦野まちづくりだより」は年間行事等説明文が多い。写真をより多くして見やすいものにし、行事にはより広くわかりやすい記事内容に努めた。	年3回発行することが定着してきたこともあり、地域での認知度は高まり協力者及び参加者が増えている。	わかりやすい紙面づくりは好評で関心や認知度も上昇している。地域行事の内容も写真を使い、より詳しく伝えることで地域の活性化につながっている。	今後も活動のPRを准めて地域住民とのコミュニケーションを向上させていきたい。協議会の会員の募集も含め、啓もう活動及び行事参加増加に努めたい。				秘書・広報課 自治振興費
地域内会館設備改修事業②	300	補助金 300	地域内会館の音響設備改修を行い、利便性を向上させる。	渋谷会館、南畑会館の音響設備が老朽化により不具合が生じていた	修理・メンテナンスを行った	両会館とも集客時等のマイクの利用がしやすくなった	会館が地域住民にとって利用しやすい施設となるよう住民の意見を取り入れて設備備品を整備していきたい				地域分種・協働課 自治振興費
はたのひろば兼事務所整備事業	1,038	補助金 1,038	地域内のコミュニケーションを密にすると共にコミュニティ会員相互の事務の効率化を図るため開設したはたのひろば兼事務所について、利便性の向上のための整備を行う。	観音開きの入り口ドアが歪んでいるドアが室内を狭くしている	全面ガラスの引き戸に改修室内がひろくなった	採光もよくなりオープンになり、入りやすくなった	拠点施設としての機能が向上したものと認識。利用者が増えるよう期待する				地域分種・協働課 自治振興費
はたのひろば兼事務所管理運営事業	1,174	補助金 1,174	地域内のコミュニケーションを密にすると共にコミュニティ会員相互の事務の効率化を図るため開設したはたのひろば兼事務所について、管理運営を行う。	はたのひろば兼事務所の平日開所の継続	はたのひろば兼事務所の平日開所の継続	会員の会議・打ち合わせ以外に地域の人も来所しやすくなり、立ち寄りの方も増えた。はたのひろばを利用したミニイベントの開催も盛況である	コミュニティ活動の拠点施設として事務所機能を充実させるとともに地域住民の利用も促進していく				地域分種・協働課 自治振興費
地域ギャラリー維持管理事業	50	補助金 50	コミュニティ事業の情報発信、地域住民の作品を掲載、地域行事等の広報を行うためギャラリー掲示板の維持管理を行う。	1か月ごとに作品入れ替えをしている。地域展示の写真なども多く紹介した。幼稚園の作品展示も継続的になっている。	月2回入替から考えると会員の負担も軽減されている。地域事業の発信、住民の作品展示・地域イベントの写真などを多く展示し、広報活動に努めた。幼稚園、子ども会などの掲示も多く好評である。	毎年、新しい作品が増えている。認知度がさらにアップしている。進行入の方にもよく見ていただいている。	作品集めはまだ必要と感じている。貼付板が老朽化している改善が必要。今後も根気強く広報活動を続けていきたい。				地域分種・協働課 自治振興費
校区益語り大会事業	200	補助金 200	スポーツ振興会と子供会等の共同開催である益語りを支援する。コミュニティ意識の高揚を図る。	スポーツ振興会・子ども会等で開催している	備品などで共同開催を支援しており、参加人数も増加している。益語りの習得を促進するために小学校の体育館で2回練習会を行った。	益語りを継続的に実施することにより、地域の親睦が図れ地域の風物詩として定着している。益語り練習会は好評で子供達の益語り参加率向上に貢献している。	語りや太鼓の継承、参加する側から開催する側への転換期の支援など				空港・観光課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和元年度執行）

地域イベント活性推進事業	660	補助金	660	地域の交流と地域活性化を図るため、フリーマーケット及び地域活動を推進・支援していく。	イベント必要物品の不足 安全対策の不足	扱いやすい備品の整備 あおぞらdeはたのフェスタで警備員を配置	イベント備品は軽量のものが増えて準備・片付けの負担軽減に役立った。 あおぞらdeはたのフェスタに警備員を配置し歩行者、来場者の安全に努められた	備品の維持管理 貸し出し備品の充実	事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費
秦野地域花いっぱい運動支援事業	80	補助金	80	地域と学校と一緒に花を育て緑化を進め笑顔のあふれる地域にしていく。	今回で7回目の事業。毎年渋谷中学校・地域の各団体と連携して行っている。	保護者・保護者ＯＢ・教職員・地域の方々が参加し、およそ20回の活動を行い、菊づくりを中心に草花の栽培に対して支援した。苗・土・肥料・鉢・プランターなどの用具も揃えることができた。	咲いた菊を中学校の文化祭で展示することにより来訪者を和ませた。あおぞらdeはたのフェスタでも展示・販売を行い、認知度はさらに高まっている。また各会館・施設にも分けて喜ばれた。	菊作りの指導者、後継者育成など今後も継続的に支援していきたい。	今後地域と学校が緑化活動を通して、ふれあいの場を広げていくことに期待する。	公園みどり課 自治振興費
自然学習講習会・昆虫育成事業	70	補助金	70	地域特有の自然と触れあい、自然を学び、幼虫育成により親子のふれあいの場を提供する。	平成22年度から継続事業。カブト虫養育場での幼虫飼育、腐葉土の入替用意。	五月山に登り自然を観察した。養育場の腐葉土の入替を行った。	養育場でこどもに幼虫を振り起こしてもらい飼育瓶に入れ自宅で成虫になるまで育ててもらおう。命に触れる体験ができた。親子のコミュニケーションの一助となり、地域の自然に対する認識が深まった。養育場の土の入替をすることにより、自然のかぶと虫の産卵場所に最適となる	かぶと虫の養育を通して今後も子供達に自然の大切さを訴えていきたい。	カブト虫の飼育を通じ、子ども達の自然学習のよい機会になっている。	公園みどり課 自治振興費
健康啓発講座開催事業	60	補助金	60	運動による認知予防講座及び正しい知識と対処法、予防法等を啓発するための講座を開催する。	健康講座・イベントがなかった	毎回定員人数程度の参加があり、参加者から次回開催の予定を聞かれた	手軽にできる体操で認知症予防や情報の提供ができた	定期開催や参加しやすい環境づくりなど幅広い年齢層に参加いただけるよう企画していきたい	認知症に関する普及啓発は市としても取り組んでいるところなので、引き続きお願いしたい。	地域支援課 自治振興費
秦野地域うたいっぱい運動支援事業	300	補助金	300	秦野小学校区の子どものための聖歌隊が町の中を練り歩き、秦野小学校でコンサートを実施。歌うことにより学年を超えて友誼の絆を深め、地域内の交流を深める。	12月のコンサートは4回開催済み。キャロリングの道順は改善されて好評である。コンサート会場秦野小学校体育館の飾り付けと暖房が課題である。	公募で集まった老若男女の団員が地域をキャロリングして小学校の体育館でミニコンサートを行い、地域交流を図った。体育館の舞台を横に使ったことは好評であった。会場の暖房はジェットヒーターとファンヒーターの併用により解消できた。	事業を継続実施することにより、うたいっぱい運動が定着しつつある。	団員の拡充と広報活動の強化。会場の暖房のより一層の強化。	コンサート等を通じて児童、生徒と地域住民との絆づくりに寄与している。	教育センター 自治振興費
キッズランド支援事業	30	補助金	30	秦野小学校で開設された「秦っ子キッズランド」で使用する用品及び教材を購入し、充実したキッズランド活動を支援する。	キッズランドでの文具等がまだ足りない。古いものの入れ替えができない。	文具や教材、道具等の購入、買換え。	遊びの幅が広がり、楽しんで過ごしている。	まだ文具等が足りない古くなっているので、継続的に支援する必要がある。	消耗品の消費が激しいキッズランドにとって充実した活動の支援に寄与している。	教育センター 自治振興費
地域内子ども会等活動支援事業	550	補助金	550	校区内で子ども会等の育成を行い、協議会と子ども会が協働して取組を行う。	長野県より雪30トン搬入して秦野小学校グラウンドにて雪あそび。	積雪不足と当日の雨の予報で開催できるか判断が難しかったが、雨も降らず当日はたくさん親子連れで大盛況であった	雪あそびは子ども会以外も対象とし、普段雪を見ることのない子供たちが自然を体感することができた。未就学児の家族での参加多数。	魅力ある子ども会になるよう支援する。未就学児を持つ親を地域の子ども会にのようにつなげていく。子ども達が自然にふれ合える機会を増やしていきたい	池田市という地域では、めったに体験できない自然を体感できたことは、素晴らしいだけでなく子ども達の成長を広げる大きなきっかけになった。	教育センター 自治振興費
計	9,006			事業提案限度額	9,076千円	次年度繰越金額	70千円			

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和元年度執行）

北豊島地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 自治振興費
地域掲示板設置事業	328	修繕料 328	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるため、掲示板を設置する。また、地域団体に共に使用出来るようにする。	校区が比較的広いので告知事項、案内等を掲示者が少ないので全体に知らせる事が出来なかった。	要望のある地域から設置しているが道路等で孤立した場所にも設置したいと思う。	掲示板を見ての行事参加も増えて来た。	コミュニティ役員・地区福祉・民生委員の方々に鍵をあずけてお任せしてしまっているが鍵をあずける人の確保に問題が残る。	各部会でまとめられていたものを役員会で決定する。	中国自動車道の大型橋工事を見越しながら、バスケットコートなどの改修やグリーンベルト設置の提案をいただいた。	地域自治会とも連携し、広報に寄与している。引き続き適切な管理をお願いするところ。	地域分権・協働課 自治振興費
地域行事活動促進事業	75	行事報償金 35 補助金 40	地域行事（校区盆踊り大会・校区秋祭り等）に必要な備品等の支援を行い、地域内行事の活性化を促す。	人口の減少で伝統行事等取りやめる地域もあるが地域全体の人道に役立ててもらいたい。	夏まつり、秋まつりの為に役立っている、との声あり。	夏まつり、秋まつりの参加者も増え伝統行事を残すことが出来るよう協力出来ている。	参加者全員が楽しめる事があればもっと良い。		前年度きてしまプラザに設置した談話室については、今後の更なる利活用に期待するところ。	事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費
防犯灯強化事業	46	電気使用料 2 修繕料 44	安全・安心なまちづくりの一環として、夜間の公園を明るくし、防犯対策強化を目的に防犯灯を整備する。	地域内神社の公園において（駒の森公園）夜間照明があたらず外部から死角になる所があった。	周辺の道路も一定の明るさが確保され事故防止に繋がっている	周辺の住民からも明るくなって防犯の意味からもありがたいと声が上がる。	校区内で、減少しているとはいえ、小、中学生への声かけが数件みられているので、他の場所でも必要な箇所がないか気を配って行く。			防犯灯を整備したことにより、公園の防犯対策強化につながっている。	公園みどり課 公園費
豊島東公園及びバスケットコート維持管理事業	1,550	修繕料 1,320 補助金 230	バスケットボール等を通じて、青少年の健全育成を図るとともに地域住民の憩いの場を提供する。	地域住民の健康増進の場が多くなく、中高生をはじめ、若者の参加できるコミュニティも少なかった。	周知、認識され利用者が、増加している	今年度（令和元年度）、後半からは特にバスケットコートの利用者が、他運動施設の閉鎖により急増。	・他市、他校区からの利用も増えて、密集が避けられない時、いかに運営すべきか。 ・管理者（鍵の開け閉めして下さる方）の高齢化及び確保			バスケットコートを含めた公園の一部管理を実施することで、青少年の健全な育成につながる。	公園みどり課 公園費/自治振興費
AED管理事業	324	消耗品費 10 器具費 314	地域内の各会館に設置したAEDについて、使用期限が切れる本体1箇所（豊島北会館）の更新を行う。また定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	会館行事の時高齢者が具合悪くなり救急車を呼ぶ事があった。比較的軽かったため救急車の到着を待たず、重症の時はAEDに頼らなくてはならないので、設置を希望している。	まだ一度も使用する事がないので幸いだがAEDがあるだけで安心する。		維持費が重なるので、今後撤去すかの課題は残るが安心の為に維持管理は続けたい。 ・使用の仕方学ぶ機会を作るべきである。			共同利用施設にAEDを配置することで、多くの住民の安心感を得ることが出来るかと考える。今後も引き続きAED設置・管理費に基づき、救命講習の受講に努めていきたい。	健康増進課 保健衛生総務費
街路灯強化事業	147	電気使用料 15 修繕料 132	安全・安心なまちづくりの一環として防犯対策強化を目的に街路灯を整備する。	道路照明が不十分なところがあり、また道路狭小、道路交通、防犯上問題があった。	通学路や交通量の多い狭い道路の照明が不十分であると思われるところの交通安全を図る。	道路照明を設置ならびに灯器のリニューアルにより、夜間でも明るく安心して通行でき交通安全が図れた。	狭い道路で道路照明の設置が必要であるため、年次ごとに設置を進めていく。			街路灯の設置により、地域内の夜間交通の安全確保が図られた。	道路・河川課 交通対策費
道路安全対策事業	2,075	修繕料 2,075	児童が登下校の際に利用する通学路にグリーンベルトを設置し、児童の安全を確保する。	校区内周辺道路において、十分な歩車分離が出来ている道路が少なく、また通過交通車両が多いため、通学時の児童の交通安全確保に問題があった。	校区内周辺道路で、通学路の指定を受けている道路の路側にグリーン舗装した。	校区内周辺通学路の路側にグリーン舗装することで、通過車両の注意を喚起することができた。				グリーンベルトの設置により、通行の安全性が向上した。	道路・河川課 道路維持費
市民レクリエーション大会事業	150	行事報償金 150	住民間のコミュニケーションを図るため、校区レクリエーション大会に必要な備品の購入を行う。	限られた団体（子ども会中心）で、池田市市民体育大会の一部行事として行なわれた。	実行の中核を担って発言する場も増えた。	コミュニティの参加により、幅広い年代層からの参加が見られる様になった。	少子化の影響で、最近は小・中学生の参加が少なくなったように思う。			地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民どうしの交流を図ることができた。	生涯学習推進課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	560	補助金 560	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	前年同様機関紙を発行。ただ、編集・印刷・市報誌への折込みetc.の作業に約1ヶ月の期間を要し、記事に新鮮味が欠ける。	コロナの問題ですべての活動が停滞。逆にこの問題で、住民の取り組み・不安etc.を吸い上げていけるように。	予定通り地域コミュニティ紙として発行してきたが効果の程は不明。	協議会の機関紙ではあるが、協議会の報告・計画のみならず、住民と協議会をつなげる企画を考えなければならぬ。			両面1枚の限られた版面の中で、写真を用いながら情報が見やすさ、まとめられている。	秘書・広報課 自治振興費
防災訓練開催事業	20	補助金 20	協議会拠点でもあり、各種教室等で多くの人が集まるきたてしまプラザでの非常時に対する防災訓練を行う。	北豊島地域において、将来予想される「東南海地震、地球温暖化に伴う異常気象による、局地的豪雨等の災害に伴う必要がある。	令和元年(9月)に北豊島地域の幼児から高齢者(約50名の参加)に至る全世代にわたる防災訓練を実施した。	幼児から高齢者にわたり、防災に対する認識が深まった。	防災は、地震・大雨・火災等と様々なものがあり、それぞれに沿った防災講習を行ってほしい。			災害時の自助共助の推進を期待。	危機管理課 自治振興費
きたてしまプラザ活用事業	3,956	補助金 3,956	地域住民相互の交流の拠点として住民対象の文化教室、子育て支援活動、また中学生学習向上のために「池田ふくまるはばたき塾」開講支援等を行う。また、高齢者等憩いの場としての談話室の使用活動を行う。	開館して相当年の間、機器の備みはあつたが変えられなかった	順次新しい機器・用具がきて、使用者も増加して、会館の利用者にも喜んでもらえている。	管理人の日の確保。談話室新設に伴う利用者増。				新型コロナウイルスの影響により、前年度と比較し利用人数は減少したが、談話室開館に伴う備品等の購入を行ったことにより、利便性が向上した。	総務課 自治振興費
きたてしまプラザまつり事業	55	補助金 55	協議会の活動状況を年に1回、地域住民に広くPRすることを目的として祭典を開催する。	きたてしまプラザの利用者の教室の発表機会が数少ない点と住民レクリエーションを通じた交流の場所も少なかった。	発表していただいた方々以外の教室の人達も、年々新しく展示、発表に参加していただいている	利用団体、新しい出し物、参加住民の増加。	現在、半日（午前中）でしているが、発表、展示希望者が増えたらどうするか。			事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費
環境美化ウォーキング事業	39	補助金 39	継続的に地域の清掃活動を行うために必要な用具を購入し、子どもたちを含む地域住民が地域美化運動を展開する。	北豊島地域内の環境改善の為、地域を分割しゴミ等を拾いながら、ウォーキングを通じて、「ゴミの発生場所と分析」を実施し「ゴミ削減美化活動と健康・地域交流を行う。地域住民と協力、ゴミを出さない為の啓蒙活動を強化する。	夏は「熱中症対応」の為中止。第1回目は、12/8第14回「豊島南1〜2丁目」実施。今年度は1回のみ（第2回目は中止、9/8第15回「笹間1,2丁目」予定が休校対応の為）「ゴミを拾いながら」「ウォーキングで健康に」「地域仲良く」を目的とした美化活動を実施。終了後「ゴミをなくすには？」を考え、「ゴミ分析データ表作成と啓蒙(市発行)看板の設置」を重点的に、環境にやさしい街づくりを目指す。 ・近郊住民・各種団体・子供会・企業より75名の参加を得る。 ・健康改善の為に2km程度のウォーキングを実施。 ・啓蒙看板の設置実施。各地区の活動が浸透しており、啓蒙活動の効果が上がっている。	・「ウォーキングで健康に」散歩しましょう！ 「ゴミはどこにあるの？」探しましょう！ 「ゴミを捨て」ゴミを拾い廃棄箱をつけます！ を目的に環境美化活動を継続することによる地域の自主的活動を拡大する。 ・ウォーキングにより、気持ち・見る目の変化・四季の変化を肌で感じ、地域の変化を感じる。 ・小学生の参加により継続性を期待。	・ゴミ発生分析結果の活用。ゴミ目目による環境改善と健康を目指すことが課題であり、地域活動家、学校との連携をとる。 ・子供〜高齢者まで、楽しく参加して貰える環境づくりの継続を心がける。		美化活動と健康を上手く繋げた活動として評価できる。看板の設置により効果的な啓蒙に繋がっているものと認識。	環境政策課 自治振興費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和元年度執行）

これは地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課目(目)	
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 自治振興費	
青パト隊パトロール活動事業	275	修繕料 63 自動車重量税 7 補助金 205	青パト隊による地域巡回活動を行い、各種犯罪の抑止に努め、安全な地域環境をつくる。	青パトでの呉服小学校区内巡回パトロール実施により、各種犯罪の抑止効果を図る。	呉服会館敷地内に設置した青パト駐車を拠点に、隊員による巡回回数や巡回範囲の拡充を図ることにより地域の安全確保ができていた。	呉服小学校区内の細い道まで巡回範囲を広げることにより、各種犯罪の抑止効果に車両を活用できた。	より一層の巡回活動の充実を図る。	各事業責任者の意見を聴き、協議会で決定する。	拠点施設の管理運営に関して、シルバー人材センターを活用して機能強化が図られたと同時に、地域全体にとっても会館の利便性が向上したものと評価するとともに、また本年度も地域で行えることは積極的に地域主体で実施したかったものと評価。	今後も引き続きパトロール活動の強化に努めていただきたい。	危機管理課 一般管理費/自治振興費	
地域掲示板設置事業	1,266	修繕料 1,266	老朽化した地域の掲示板を取り替え、地域団体と共に使用出来るようにする。	地域内にある掲示板の老朽化が激しいため、広報活動に支障があった。	老朽化した掲示板を変わり、新たに設置した掲示板は、ワイドで大きなポスターも充てることができ、住民からも賛辞の声があった。	ワイドで見やすい掲示板に付け替えたため、地域の広報活動が活発化した。	地域のお知らせや地域コミュニティ推進協議会の活動も、この掲示板を通じて地域住民に広く知らせることができ、今後も広報活動の充実を図る。				地域の自治会とも連携し、広報に寄与している。引き継ぎ適切な管理をお願いするところ。	地域分権・協働課 自治振興費
街路灯強化事業	144	電気使用料 15 修繕料 129	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、街路灯の設置及び維持管理を行う。	地域内の街並みでうす暗い道路等に街路灯を設置し、安全確保に努める。	地域内に街路灯を設置することにより、夜間の安全を確保することができた。	市民が通行する道路に街路灯を設置したことで、地域住民から安心して夜間の通行ができることの喜びの声が聞こえてきた。	地域内でのうす暗い場所等に安全確保のため、街路灯の設置を進めていきたい。				街路灯の設置により、地域内の夜間交通の安全確保が図られた。	道路・河川課 交通対策費
道路安全対策事業①	327	修繕料 327	歩行者の安全の確保するため、見通しの悪い交差点にカーブミラーを設置する。	交通事故等の危険をはらんでいる交差点に安全な施策を推進して事故の防止を図る。	カーブミラーの設置により、安全性が向上した。	カーブミラーの設置により、子どもやお年寄りを交通事故から守れるようになった。	地域内には、まだまだ危険な箇所が点在しているため、カーブミラーの設置を順次検討していきたい。				道路反射鏡の設置により交差点通行の安全性が向上した。	道路・河川課 交通対策費
道路安全対策事業②	1,210	修繕料 910 補助金 300	児童が登下校の際に利用する通学路にグリーンベルト・溝蓋を設置し、児童の安全を確保する。	児童の登下校時に利用する通学路に、交通事情の激しい危険な箇所があり、交通事故が発生しないかと気になっていた。	交通事情の激しい危険な道路にグリーンベルトを敷設したことにより、交通事故から子ども達を守る事ができる。	グリーンベルトの設置により、登下校する子ども達を安全に誘導できる事により、交通事故を回避できる。	地域内には、まだまだ危険箇所があるので、順次設置に向けて対応したい。				グリーンベルトの設置により、通行の安全性が向上した。	道路・河川課 道路維持費/自治振興費
呉小吹奏楽クラブ支援事業	100	校用器具費 100	呉小吹奏楽クラブの楽器購入を支援する。団体の活動支援を行う。	呉服小学校の吹奏楽クラブの楽器が老朽化していて、正確な音程を出せない状態である。	老朽化した楽器を新規購入することで、古い楽器を新しく入ってくる児童の練習用に活用している。	新しい楽器演奏で技術の向上に役立つとともに、練習用の楽器ができたことで更なるレベルアップが図れる。	年々老朽化する楽器を計画的に買い替えることがこれからも必要と思われる。				使用可能な楽器の一層の充実により、生徒の演奏技術の向上に繋がった。	総務・学務課 学校管理費
市民レクリエーション大会事業	350	行事報償金 350	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。コミュニティ意識の向上に努める。	地域のスポーツ振興会が開催している市民レクリエーション大会を支援する。	当協議会が行事報償金として支出することで、地域住民のコミュニティ意識の向上を図る。	市民レクリエーション大会に当協議会が参画することで地域住民のコミュニケーションの向上が図れた。	他地域の行事報償額も検討し、校区の市民レクリエーション大会が活性化できるよう努める。				地域スポーツの振興、地域住民のスポーツ機会の提供、住民どうしの交流を図ることができた。	生涯学習推進課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	508	補助金 508	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸配布する。	協議会の存在や活動内容について、地域全体に広報することで理解を深めてもらっている。	校区に居住する住民に、協議会の活動報告を周知することにより、協議会の活動について理解が得られた。	結果、校区に居住する住民から協議会への参画希望が増加し、特に若い世代の人達からの新入会員が得られた。	今後も益々内容の充実を図り、毎年実施している事業のお知らせや協議会への参加を促進していきたい。				文字が大きく、見やすいレイアウトで作成されている。今後も協議会への参加希望、新入会員の増加につながることを期待。	秘書・広報課 自治振興費
地域防災体制強化等事業	308	補助金 308	近年多発する災害等による停電に備えるため発電機を購入する。	災害等に備え、地域住民の安全対策を行いたい。	災害対策として発電機を備えた。	もしもの時に対応できるように備えが出来、地域住民に少しでも安心してもらえた。	災害時に必要な備品をそろえていきたい。				過去の災害の教訓を生かした事業内容を評価。	危機管理課 自治振興費
合同防災訓練事業	180	補助金 180	不慮の災害時、地域住民と協力し難局を乗り越えられるよう、住民相互による協力関係を構築するため、呉服小学校区内の合同防災訓練を実施する。	校区内での防災訓練は、8自治会で実施して、実際の災害が発生した場合を想定した上で、地域住民同士が一体感を得ることができた。	雨天のため呉服小学校の体育館を活用して、合同防災訓練（8自治会）を実施することで、地域住民同士が一体感を得ることができた。	不慮の災害時、自主防災会と地域住民が協力して難局を乗り越える事ができるよう、相互信頼の構築ができた。	防災訓練の内容をより充実させることにより、地域住民との信頼関係をさらに向上させること課題と思える。				防災訓練の実施により災害に向けた自助、共助の推進を期待。	危機管理課 自治振興費
地域コミュニティ推進協議会拠点管理運営事業	2,319	補助金 2,319	呉服会館を地域コミュニティの拠点施設として管理運営を図る。	共同利用施設呉服会館の一室を地域コミュニティ推進協議会の活動拠点として、備品等の整備を進めている。	地域コミュニティの拠点として、地域活動の活性化が図られた。	協議会における役員会や各部会の活動が活発に展開され、地域分権推進に大いに役立っている。	小会議室の再整備と備品購入で協議会活動の更なる活性化を図る。				シルバー人材センターを活用して、会館管理にも寄与いただいている。	地域分権・協働課 自治振興費
地域活動支援事業	200	補助金 200	地域の行事の備品運搬等の支援を行う。	地域の行事で大きな備品や資源ごみ回収時に自己負担で車を出していた。	地域の行事の備品運搬等の支援を行うためにレンタカー代金を拠出する。	地域の行事の備品運搬等の支援を行い個人の負担を軽減した。					地域活動の支援により活性化に寄与したものと評価。	地域分権・協働課 自治振興費
地域内会館設備改修事業	50	補助金 50	地域内会館の設備改修を行い、利便性を向上させる。	地域内における会館施設の設備が老朽化している。	地域内における会館施設の設備を改修し地域住民の利便性を向上させることにより、利用者の賛辞の声を届いた。	老朽化した設備を改装することにより高齢者も利用しやすくなり大いに歓迎されている。	他の共同利用施設等の設備も改修を検討していきたい。				会館の利便性が向上したものの、積極的にご利用いただきたい。	地域分権・協働課 自治振興費
地域内会館備品整備事業	275	補助金 275	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。	地域内にある会館施設の備品が老朽化していて安全面が不安がある。	共同利用施設の老朽化した備品を新規に買い換える、改装、整備することにより、利用者の賛辞の声を届いた。	老朽化した備品を新規に買い換える、改装、整備することにより企画行事が円滑になり大いに歓迎されている。	他の共同利用施設等の備品も買い換えを検討していきたい。				会館の利便性が向上したものの、適切な管理をお願いするもの。	地域分権・協働課 自治振興費
地域イベント備品整備事業	100	補助金 100	地域で開催されるイベント等に使用する備品を整備し、地域の活性化を図る。	地域内のイベント備品を利用者からの要望があったので購入した。	テント、テーブル整備することにより、利用者の賛辞の声を届いた。	地域のお祭り、イベントに貸し出すことにより企画行事が円滑になり大いに歓迎されている。	必要なものを厳選して、購入したい。				事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費
これは祭り開催事業	700	補助金 700	これは祭りを各種団体と協働で開催する。地域のひとととの繋がりを深め地域コミュニティの活性化を図る。	これは地域内のコミュニケーションの充実を図ることを目的に合同で祭りを開催する。	呉服小学校において、これは校区の住民である子供からお年寄りまで楽しめるイベントを開催した。地元の参加団体を募集し、店舗とステージ以外に無料の子供用遊具を設置。	これは小学校区の子供から大人まで参加してもらい大盛況だった。ステージや遊具は無料、店舗は格安の値段だったので大好評だった。またワークショップも開催 新しい試みで大盛況だった。	地域内のコミュニケーションを今後も積極的に図り、地域のつながりを広げていきたい。				事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費
リユース活動事業	60	補助金 60	家庭で不要になった子ども服等を融通しあうことでリユースを推進する。	衣服に名前を書いてしまっているような衣料品は店舗での引き取りをしてもらえず捨ててしまわなければならないので、融通しあう家庭で不要になった子供服をリユースする。	例年呉服小学校の体操服リユースも行っているが、新型コロナウイルスの影響で今年度は回収のみを行った。	とても好評で、来年もぜひ開いてほしいという言葉を頂いた。	地域分権の子育て世代への認知度が上がった。				特に子育て世代に有効なリユース事業である。対象世代のコミュニティ形成にも有効と考える。	環境政策課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和元年度執行）

呉服小学校花いっぱい運動支援事業	110	補助金	110	地域と学校と一緒に実施する「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を行う。	地域と学校と一緒に花を育てる活動を支援する。 満寿美町内にあるプランターの手入れ	「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動を支援する。 満寿美町内に緑が増えた	呉服小学校と地域と一緒に花を育てるプロジェクトに参加し、子ども達が花を育てる喜びを感じ、感性豊かな心を育む事ができた。 地元の方々には好評を得た	感性豊かな子ども達を育てていく事業にも、今後とも積極的に対応していきたい。	<p>今後も地域と学校が緑化活動を通して、ふれあいの場を広げていくことに期待する。</p> <p>各種行事に必要な備品を整備することにより、学校関係者だけでなく地域の人にとっての利便性が増した。</p> <p>用具等の消耗が激しいキッズランドにとって充実した活動の支援に寄与している。</p> <p>スポーツを通じた地域住民どうしの交流促進につながった。</p>	<p>公園みどり課 自治振興費</p> <p>総務・学務課 自治振興費</p> <p>教育センター 自治振興費</p> <p>生涯学習推進課 自治振興費</p>
地域内学校園設備支援事業	700	補助金	700	地域内の学校園において開催される各種地域イベントにて必要となる備品の整備を行う。	地域内の学校園においてイベントや行事などで必要な備品が不足していた。	必要な備品の整備を行う。	学校関係者だけでなく地域の人にとって利便性が増した。	安心して教育が受けられる環境を整えていきたい。		
キッズランド支援事業	60	補助金	60	呉服小学校で行われている「キッズランド」で使用する用品を購入し、子育て支援を推進する。	地域内の呉服小学校のキッズクラブに遊具備品を整備し、子育て支援を推進する。 要望が市民からあった。	地域内の呉服小学校のキッズクラブに遊具備品を整備することにより、子供たちの環境が改善した。	子育て世代の市民は日々負担増であるが、少しでも安心安全の助けになっているので大いに歓迎されている。	今後も支援していく。		
グラウンドゴルフ実施事業	90	補助金	90	高齢者と若者が一緒にグラウンドゴルフを行い、スポーツを通じて地域コミュニケーションを図る。	グラウンドゴルフの普及とスポーツを通じての地域コミュニケーションを図る。	年数回のグラウンドゴルフ大会を開催することにより、地域住民同士のコミュニケーションが図られた。	参加者は会を重ねること増し、グラウンドゴルフを通じてのコミュニケーション作りは効果あり。	若者の参加が得られなかったことなど、今後の広報活動や運営の方向性に検討の余地あり。		
計	9,432			事業提案限度額	17,610千円	次年度繰越金額	8,178千円			

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和元年度執行）

石橋地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100		協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。							地域分権・協働課 自治振興費
防犯カメラ新規設置事業	108	電気使用料 4 機器借上料 104	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため、防犯カメラを設置する。	一部死角になり不安、及び、犯罪者の逃走経路となるのではとの指摘及び、要望有り。	犯罪者の逃走経路の減少及び、設置しているところだけで、犯罪件数の減少、並びに犯罪者の早期逮捕につながる情報が集まりやすくなった。	設置箇所が増えたことによる犯罪抑止効果ありと判断します。	現状を継続しつつ、人任せの安全対策ではなく、自らの防犯意識向上を促し、各家庭への防犯装置の充実（支援/援助）を図り、防犯設備の設置等、見張り役の増強の見直し検討が必要であると考えます。又、設置場所として、高層ビル/マンション屋上、設置機材として、防犯カメラ/車載カメラ/ドローン、緊急連絡手段として、放送設備等の在り方についても今後の対応検討課題とする。	各部会でまとめられたものを、役員会で決定する。	各部会がそれぞれにしっかりと活動できているものと評価すること。 一方、要支援者対策においても活動者への負担が大きくなり、事業継続していくためには、協議会への参画者をいかに増やしていくかが重要であると認識すること。	必要箇所適切に設置していることで市民の治安維持に貢献したことを評価。	危機管理課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	373	電気使用料 49 設備保守点検委託料 324	安全で安心な暮らしの実現に向け設置した防犯カメラの維持管理を行う。	一部死角になり不安、及び、犯罪者の逃走経路となるのではとの指摘及び、要望有り。	設置箇所も増え、安全で安心な暮らしが出来る。又、第三の目(者)による長期休暇(夏休み/大型連休)期間中の見守りが可能となる為、継続とする。	設置箇所が増えたことによる抑止効果ありと判断します。	リースのような、安価な設投で、管理費の低減を図る。 又、家庭用防犯装置費用支援/援助策を提案し、各家庭への防犯装置設置希望者を募り、自らの防犯意識向上を促進させ、地域一丸となった防犯対策を実施する。	各部会でまとめられたものを、役員会で決定する。	継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む。	危機管理課 自治振興費	
地域内会館備品整備事業①(井口堂北会館)	1,429	消耗品費 36 庁用器具費 1,393	地域内会館(井口堂北会館)の備品整備を行い、利便性を向上させる。	井口堂北会館の会議室の長机、椅子を前年度に新規購入するも数量が不足のため、再申請した。 現在使用中のスリッパが古く汚れ、黒化して利用者が各々持参している状況であり、利便性を図りたい。	長机は表面は白く、椅子は明るい色合いで軽く、利用者からも好評である。 スリッパも明るい色合いで利用者からも好評を得ると思われる。	長机、椅子とも軽く、利用する高齢者も出し入れがスムーズに出来る。 スリッパ買換え後、会館が10月からエレベーター設置工事で閉鎖されており再会館が待ちどろしい。	利用者が共同利用の意識を再認識を徹底し、下駄箱の清掃を促し、作り替え等考えたい。	会館の利便性が向上した。積極的にご利用いただいた。	地域分権・協働課 地域集約施設管理費	地域分権・協働課	
地域内会館備品整備事業②(栗野会館)	282	消耗品費 23 庁用器具費 259	地域内会館(栗野会館)の備品整備を行い、利便性を向上させる。	栗野会館は、利用者に高齢者が多く、古くて重く、色合いも暗い、机等の備品の格納等に利便性を図りたい。	利用者からの要望に合致した備品が配置されて好評である。	利用する高齢者も出し入れ等がスムーズに出来て、参集する会議が増えている。	会議等のリーダーに共同備品であることを利用者に意識、認識を周知徹底を図る。	会館の利便性が向上した。積極的にご利用いただいた。	地域分権・協働課 地域集約施設管理費	地域分権・協働課	
コミュニティ倉庫設置事業	207	修繕料 207	井口堂北会館敷地内に倉庫を設置し、地域内の各種団体の利便性の向上を図る。	石橋地域コミュニティ推進協議会の倉庫が手狭になって来た。	本年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、各種イベント等の事業を中止並びに、延期する旨の行政指示に従い、中止せざるを得ませんでした。	地域コミュニティ推進協議会の必要資材置き場が手狭になり、増やす必要があるため。	必要な資材置き場を確保することが重要になって参りました。	会館の改修日程及びコロナ禍の影響で執行できなかった。	地域分権・協働課 自治振興費	地域分権・協働課	
地域掲示板設置事業	65	修繕料 65	老朽化した地域の掲示板を取り替え、地域団体と共に使用出来るようにする。	石橋2丁目目設置していた掲示板を撤去する。	石橋2丁目目設置していた掲示板を旭丘1丁目会館の表に設置	掲示板事象、使用可能であり旭丘1丁目に石橋地域コミュニティ推進協議会の掲示板が少ないため有効活用が出来ました。	令和2年度掲示板補修事業あるため、修理が必要な場合対応予定	既設掲示板を有効活用いただき地域の広報に寄与した。	地域分権・協働課 自治振興費	地域分権・協働課	
地域行事等活動促進事業	400	行事報償金 400	納涼大会等を実施する地域団体に電気設備設置及び活動運営を支援して、コミュニティ活動の充実を図る。	地域住民への参加をチラシ等でPRし、世代交流を通して安心・安全な地域づくりをめざす納涼大会であった。	本年も盛大に行なった。仕事分担も円滑に進み、大きい事故もなく終了。中学生の後片付け参加は住民にとって大変ありがたいとの声が寄せられた。	各団体のつながりが深められ、他行事においても参加住民の増加は良かった。	納涼大会で使用する備品の老朽化が多く見られる。次年度備品の充実とよりよい運営を要し話し合う。	予算執行は適正。支出(協議会への入金)時期について今後、要調整。	空港・観光課 自治振興費	空港・観光課	
防犯灯強化事業	2,293	電気使用料 8 修繕料 2,285	安全・安心なまちづくりの一環として、夜間の公園を明るくし、防犯対策強化を目的に防犯灯を整備する。	石橋公園内防犯灯5ヶ所公園内全体ムラが合った。	公園内2ヶ所設置	公園内全体にムラが無くなり使用者も安心して使えるようになった。	今までに設置している防犯灯に汚れ(蜘蛛の巣、埃、枯れ葉、葉)等あり明かりが暗くなっていく。3年、4年に1回清掃をお願いします。	防犯灯を整備したことにより、公園の防犯対策強化につながっている。	公園みどり課 公園費	公園みどり課	
記念碑公園整備事業	713	修繕料 713	記念碑公園の周囲の石積の整備と標識の移設、またベンチの設置により、地域住民に憩いの場を提供する。	1) 記念碑公園の周囲石積が1部損壊 2) 不安定になった交通標識を移動する 3) 住民が休憩できるベンチを置く	公園周囲の石積整備出来た。 5ヶ所の公園入口付近整備する事が出来た。 標識の移動して再設置出来た。 休憩出来るベンチ1基設置出来た。	石積の整備により土砂の流出が防止出来た。 5ヶ所の公園入口付近整備する事が出来た。 標識の移動して再設置出来た。 ベンチを1基設置する事により、複数のグループが休憩出来るようになり、公園を利用する人数が増加した。	公園内に掲示板を設置していますが、古すぎるので取替も考慮対象	異羽の里内における記念碑周辺の整備により、地域の憩いの場として活用されている。	道路・河川課 道路維持費	道路・河川課	
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の向上とコミュニティ活動の充実を図る。	当事業も地域住民も市民運動会として毎年10月第2日曜日に開催されることが浸透しているがさらに幅広く参加を呼びかけた。	参加人数は例年と変わらず大盛況で大きな事故もなく終えることが出来た。	石橋校区スポーツ振興会を中心に各団体間の連携がスムーズになり、協働する参加者が年々増加し、各人間の繋がりも太くなった。	スポーツ推進委員の存在、活用方法をより以上図る必要がある。	地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民どうしの交流を図ることができた。	生涯学習推進課 社会体育振興費	生涯学習推進課	
地域コミュニティ紙等発行事業	400	補助金 400	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸配布する。	コミュニティ各部会が行う事業内容を住民に周知することでコミュニティの存在と役割を知ってもらう事業。	年間2回のコミュニティ紙の発行事業で、旭丘、井口堂及び石橋における活動内容と地域性を広く伝達できた。 また、コミュニティホームページを活用し、地域の現状・コミュニティ推進協議会の活動内容等を伝達することもできた。	地域に必要なニュース、学校と地域のつながり、地域の行事、石橋コミュニティ推進協議会の活動内容を広く周知することが出来た。	地域コミュニティの事業には継続型が多く、報告の記事が多くなりやすい。そのため話題性のある自然災害時の対応、敬老の里プロジェクト、地域分権の見直し、新型コロナウイルス、等の記事も扱いたい。	地域コミュニティの紙に加え、その時の話題性のある内容を取り入れた読みやすい誌面となっている。	秘書・広報課 自治振興費	秘書・広報課	
避難行動要支援者対策事業①	252	補助金 252	石橋小学校区の要支援者のうち、要支援に同意された家庭に対し、定期的に安全確認を行い、非常時には避難誘導に努める。	既存の地区委員や団体会員による、身近な高齢者等要支援者への声掛けやフォローを行っている。	池田市危機管理課に提供された避難行動要支援者情報提供に同意された方に対し、年3回の訪問をし安全確認を行い、現状などをお聞きした。	提供された要支援者の状況は、訪問の度に個別避難計画に記入している。定期的に報告会を設け、確認員相互に要支援者の状況をシェアし、より密に地域の要支援者を見守ることができている。 確認員の増員が、直近の課題となる。	確認員が増加することも考え、確認員の負担増が見込まれる。対象が高齢者であることも多く訪問にかかる時間も長くなることある。	本市の施策にご理解いただき、協議会を立ち上げ実施していただいている功績を非常に大きな業務と想いが引き続き継続的な実施を期待する	危機管理課 自治振興費	危機管理課	
避難行動要支援者対策事業②	93	補助金 93	石橋小学校区の要支援者のうち、要支援に同意された家庭に対し、定期的安全確認を行い、非常時には避難誘導に努める。	要支援者宅訪問時、書類の整理ができ、訪問しやすくなった。聞とりメモなどバイダーが役立っていた。	要支援者訪問時、書類の整理ができ、訪問しやすくなった。聞とりメモなどバイダーが役立っている。	訪問に効率上がり、支援者、要支援者との話が聞けたり、相談を受けたりの余裕が生まれている。	支援する側のなり手不足への対応。		危機管理課 自治振興費	危機管理課	
地域防災体制強化等事業①	1,000	補助金 1,000	自主防災組織の体制強化を図るため、防災倉庫に防災備品を整備する。また、防災訓練を関係各所の協力のもと実施する。	緊急時に誰が何をどうするべきなのか知識が不足している。	組織網の整備及び、緊急時の対応(訓練ではあるが)体験及び各種知識の向上が図れた。	地域住民、学校、施設他及び行政の協力の基、連携を取りながら訓練が出来た。 今回は特に学校の教職員様のご理解及びご協力に感謝いたします。 参加者各自の経験となり記憶の片隅にも残れば、いざという時の助けになると期待します。	各種の災害及び時間帯に即対応出来るが、訓練内容(夜間等)を変えつつ継続実施する。学校の設備に頼らず、公園等に何も無い場所等から炊き出し等が可能かやってみる価値あり。又、備の手当他、身近にある物品を応用し、簡単に出来る方法等も織り込んでの実施をしたい。又、今回ようなウイルス等による緊急事態宣言発令時に対応できる体制(装備等)を検討する必要性を痛感する。	災害時における地域の防災力向上に期待するともに地域住民まで巻き込んだ活動は英助の推進に大きく貢献しており評価する。	危機管理課 自治振興費	危機管理課	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和元年度執行）

地域防災体制強化等事業②	180	補助金	180	自主防災組織の体制強化を図るため、研究会を実施する。	自然の力/恐怖/何が出る/日頃からの準備等知識及び経験が不足している。	見て/知って/感じて、各自とらえ方は異なると思うが、自然のすごさ/脅威を感じ、日頃の心構えが少しは変化したと思える又、自ら経験体験することにより、多少なりとも何らかの自身が付いた。	普段経験できないことを、各施設を利用させていただきなから、参加者の経験知識向上を図り、地域住民もご参加いただき、今回の趣旨は達成したと判断します。また、参加者各自の経験となり記憶の片隅にでも残れば、いざという時の助けになり、教えられる（伝授する）第一歩になることを期待する。	現在住んでいる環境（状況）に応じた、対応経験が急務と考える。 ・土砂災害への対応他 それには、各地域にある施設を見学し、疑似体験を多く積み重ね、豊富な経験として記憶し、いざという時に役立たせる。又、地域住民により多くのご参加を頂ける様、副都工事を行政へ提案し、目的、緊急時への対応が即座に出来る様に、日々準備検討を心がける。 尚、今回の様なウイルスによる緊急事態宣言発令時の各関係者間の連携対応（装備/備品を含め）について再考を要する。	研修会で得た知識を活かしながら災害時の活動に活かしてもらいたい。	危機管理課 自治振興費	
地域内会館備品運営事業	400	補助金	400	井口堂北会館に整備した備品の運用を行う。	コピー印刷機設置以前は各団体が各自でコピー等でコピーをとっていたので、かなりの費用と時間を取っていた	コピー印刷機設置後は各団体が会館において、チラシ、レシメ等、印刷出来る様になった。	費用、時間ともに短縮軽減出来各団体及び地域住民に多に利益をもたらした。 特に枚数が多い場合等、他の人に迷惑をかけずに済み喜ばれている。	会館にエレベーターが設置された事により、コピー印刷機の設置場所がなくなり、石橋地域コミュニティの拠点作りが急がれる。	会館に併し、設置場所については再度検討願いたい。	地域分権・協働課 自治振興費	
リサイクル活動事業	30	補助金	30	ペットボトルキャップの回収リサイクルを行う。資源の有効利用を図ると同時に住民の意識を高める。	キャップ回収容器設置場所増加、回収量をめざす。劣化した容器の交換。	設置場所の協力によって回収作業が年々はかどっている。	井口堂北会館工事中にもかかわらず、回収量増加につながったのは地域住民意識が上がっていると感じられる。	多様なキャップリサイクル品製作への提案（持続可能な事業）	活動の広がりにより、リサイクルの推進と市民への啓発が効果的に実現できてきていると認識。	環境政策課 自治振興費	
地域美化整備事業①	200	補助金	200	美しい街を目指すため、啓発用ポスター等を作成し、呼びかけを行い、地域住民のモラルの向上を図る。	A4サイズのチラシで、地域の美化に関する呼びかけをしていた。	サイズの大きなアクリル板を製作し、地域の12か所に設置した。	以前のものは、劣化が早くなかなか地域の方に周知ができていなかったが、今回アクリル板にして、見やすく丈夫なものになり、一層の地域美化への呼びかけができた。	大きなものになったので、しっかりと設置し、風などの影響が出ないかを定期的に見守る必要がある。	チラシをより丈夫なものにすることで、一層の美化意識向上に繋がっていると認識。	環境政策課 自治振興費	
地域美化整備事業②	50	補助金	50	花や緑にあふれた「美しいまちづくり」を目指し、宅地周辺の雑草除去を行う。	「美しい街づくり」の呼びかけで、宅地周辺の雑草除去をお願いするチラシをつくる	引き続き、雑草除去のお願いをチラシ配布し、呼びかけた。	まずは配布した各戸の雑草を抜いてもらうことで、個々にできる「美しい街づくり」をしていく	まだまだ協力してもらえていない場所もたくさんあり、今後も呼びかけていかなければならない。	地域により雑草除去を進めることで、美しい街づくりの啓発となっている。	公園みどり課 自治振興費	
地域美化整備事業③	87	補助金	87	花や緑にあふれた「美しいまちづくり」を目指し、花を育てて、保育所、学校、各施設にプランターの花を贈呈する。	花や緑にあふれた「美しい街づくり」を目指し、各所にプランターの花を贈呈した	引き続き、この事業でプランターの花を贈呈した	保育所、学校、各施設に贈呈し、街に花が増えた。	各所に置いていただいている花も、水やり等の世話も、その施設にお願いすることになるので、枯れてしまったり花がなくなってしまうことも想定し、追肥や土を加えたり作業も必要になり、携わっている会員の負担も、今後の課題である。	地域の幼稚園や小学校など各施設へ花鉢の配布を行うことにより、地域緑化に貢献している。	公園みどり課 自治振興費	
公園美化整備事業	44	補助金	44	花や緑にあふれた「美しいまちづくり」を目指し、花を育てている。	石橋公園を花や緑にあふれた公園にするよう花壇の整備をしている	引き続き、この事業で、公園に花を植えた	花壇も花であふれ、地域の公園として地区住民の憩いの場になってきている。	春から夏にかけて毎日2回以上の水やりには、委員が時間をついやしている。今後もその負担は変わらず、負担減のためにも、人員確保も考慮したい。	公園内の花壇の管理などを行うことで、地域住民の憩いの場になっている。	公園みどり課 自治振興費	
公園整備等事業	45	補助金	45	公園が憩いの場、遊びの場、集合の場として地域住民に積極的に活用されるよう、機能の維持・充実を図る。	石橋公園を遊びの場、集合の場として活用されるよう整備している	引き続き、この事業で、整備した	芝生の補充をし、清掃雑草除去して、美しい公園としてみんなで活用できる公園になった。	芝生が定着するまでの管理が難しく、生育中の芝生の中にも立ち入ってしまうこともあるが、公園であるためあまり強要できないのも課題である。	公園内の芝生の管理や雑草除去などを行うことで、地域住民の憩いの場になっている。	公園みどり課 自治振興費	
石橋公園整備事業	14	補助金	14	子どもたちが安全に遊ぶよう、石橋公園内の凹凸の平準化のため、土入れを行う。	石橋公園が近年の集中豪雨のため、大きな溝ができていた	溝を修復し、土を入れ、塩カルを撒いて土を硬くし、豪雨でも溝が埋れないように整備した。	子供たちが安全に走り回れるようになった。	この作業も引き続き行わないとまた、掘れてしまう可能性もあり 今後も見守っていく必要がある。	公園内の凹凸部分の一部改良により、子供などが安心して利用できるようになった。	公園みどり課 自治振興費	
交通安全モラル啓発事業	100	補助金	100	車・人・自転車の事故減少及びマナー向上のため、交通安全モラル教室を開催する。また、交通安全対策として、標識看板の設置を行う。	自転車も軽車両であるという認識及び罰則も乏しく、標識の見方及び自転車の正しい操作方法等の知識不足且つ、賠償保険の重要性に無知である。	本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止等により、行政指導に基づき、安全運転教室は中止とし、罰則含む安全運転法規啓蒙チラシ掲示のみへ変更とする。	新型コロナウイルス感染拡大防止行政指導により、安全運転教室を中止とした為、安全運転に関し、守らなければいけない法規及び違反時の罰則について、知っていた。	子供達を中心に継続実施はするが、指導者であるご両親・おばあちゃん及びおじいちゃんへの指導及び注意が急務と思われる。他、保険への加入促進、並びに自転車の座席等地域の自転車店様のご協力の基、展開が必要である。今回のような異常事態が今後もあろうことも想定しながら、臨機応変に対応が可能となる仕組み及び、運営方法の検討も考えつつ、日々の地道な地域住民の協力の基、自転車だけでなく、交通安全全般に全員で取り組む必要性あり。	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から教室は中絶となったが、できる範囲での啓蒙活動により交通安全啓発に寄与した。	まちづくり・交通課 自治振興費	
三世代交流事業	250	補助金	250	異学年交流により上級生は下級生をいたわり、下級生は上級生を慕い敬う人間関係を幼少期から育成する。	子ども会、PTA、地域の人（校区内にあるボランティア団体）は各々の活動で協働して活動する機会が少なく交友が少なかった。	子ども達や若い保護者、地域の人達、高齢者住民が準備会議や事前準備、当日の運営を手助けする機会が増え顔馴染みになり、子ども達に住民の声掛けを容易にし、挨拶する光景が増えた。	交流事業の認知度が上がり多くの人がから協力の申し出があり、多くの人が参加して頂き、楽しく、可笑しく、参加者全員が楽しい時間が過ぎた。今後も継続的に開催して欲しいとの要望する声が多くある。	事業を9月実施して5年経過した。活動を支えて頂く方々は納涼大会（8月）、10月2日回ある運動会の秋間を超えて多目的つづ天候の変化が気にかかり実施判断、材料購入等に思案することが難しく実施時期を検討要。 時間工程に中絶みに工夫したがより充実を図り、より家族ぐるみで参加出来る事業内容とした。	子ども達、若い保護者、またこの事業に参画している種々の世代の地域住民との絆づくりの構築に寄与している。	教育センター 自治振興費	
計	9,315			事業提案限度額	12,903千円	次年度繰越金額	3,588千円				

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和元年度執行）

五月丘地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周辺に係る事務費。								地域分庁・協働課 自治振興費
防犯カメラ新規設置事業	322	電気使用料 10 機器借上料 312	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため、防犯カメラを設置する。	校区内に17ヶ所の防犯カメラが設置されていた。	新たに3ヶ所の防犯カメラを設置し、全20ヶ所となった。	防犯カメラは犯罪被害の未然防止や犯罪の予防の有用性が認められている。地域の安全で安心な暮らしの実現を目指すために有効と考える。	20ヶ所で十分とは言えず、設置を増やしてほしいとの地域ニーズがある。しかし増やせば増やすだけ毎年の維持管理費用が増えることが課題である。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめられたものを総会で決定する。	本年度は協議会の依頼であった拠点・事務所が整備された。今後、真の意味で地域の拠点として、コミュニティ活動の中心となっていくことを期待するもの。それに伴い、事務局体制の強化を望むもの。	地域の防犯のために積極的に設置していただいている点を評価しつつ費用対効果を勘案した管理運用を望む。	危機管理課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	1,160	電気使用料 72 設備保守点検委託料 216 機器借上料 872	防犯カメラの維持管理を行う。	17台の防犯カメラを管理している。	新たに3台増えて、全20台となった。	—	防犯カメラに係る毎年の維持管理費用が本協議会予算の約1割を占めていることが課題である。		継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む。	危機管理課 自治振興費	
緊急通報装置管理事業	1	電気使用料 1	緊急通報装置の電気代を賄う。	継続して緊急通報装置を管理している。	—	小学校や中学校への主要な通学路にあり、安心感があるとともに犯罪の抑止効果が期待できる。	特になし。		緊急通報装置の運用が今後犯罪抑止に繋がることが期待する。	危機管理課 自治振興費	
地域内会館設備改修事業	697	修繕料 697	五月丘会館1階の天井及び内壁等の塗装と、下駄箱の扉の整備、照明のLED化を行い、会館の利便性の向上を図る。	五月丘会館は昭和54年4月に開設された共同利用施設で老朽化が進んでいるが、校区内に1箇所しかない貴重な会館であるため、地域住民の利用度は高い。	1階玄関の下駄箱を含めて改修工事を行った。	玄関が明るい雰囲気となり、利用者の評判は良い。	五月丘会館は地域活動の拠点として、地域住民や各団体が利用しやすい施設に今後も改修していく必要がある。		会館の利便性が向上したことで、積極的にご利用いただきたい。	地域分庁・協働課 地域集会所施設管理費	
地域コミュニティ推進協議会拠点整備事業	4,428	修繕料 4,428	地域コミュニティ推進協議会の活動の進捗に伴い、事務所機能と、委員・地域住民が気軽に集える拠点を設置するため、五月丘会館の機械室の整備を行うもの。	共同利用施設五月丘会館の2階に使用されていない機械室があった。	本協議会の事務所へ改修した。協議会の必要な各種書類や備品等の保管、事務作業や会議の場として利用している。	今後、本協議会事務所が地域のまちづくり活動の拠点となることが期待される。	本協議会事務所が地域に開かれた場所としていくためには、これまでの共同利用施設としての管理運営の仕方との調整が必要である。		協議会の事務所のみならず、地域の拠点と育てていくことを期待するもの。	地域分庁・協働課 自治振興費	
地域コミュニティ推進協議会拠点管理運営事業	1,631	機器借上料 188 インターネット使用料 80 庁用器具費 683 補助金 680	地域コミュニティ推進協議会の事務所と、委員・地域住民が気軽に集える拠点の運営を行う。	—	複合機、パソコンを使用し事務作業が行えるようになった。また電話、FAXの回線が通じ、外部から連絡を受けることが可能になった。	事務所としての機能を発揮している。	複合機を貸してほしいと他団体から要請がある。現在お断りしているが、今後の地域の各団体と連携して事業に取り組む中で、他団体が本事務所を使用する場面も出てくると思われる。		各団体との連携も含め、関係が円滑なまま、継続可能な管理運営に期待するところ。	地域分庁・協働課 自治振興費	
AED管理事業	10	消耗品費 10	地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	校区内に3箇所のAEDを管理している。	2箇所（五月丘会館・セブンイレブ）のAEDのバッテリーを交換した。	人が集まる場所に設置しており、安心感がある。	令和2年度からは本格的に地域に開かれた事務所として運営を行っていく。		共同利用施設・コンビニ等にAEDを配置することで、多くの住民の安心感を得ることが出来るか考え、今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていきたい。	健康増進課 保健衛生総務費	
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。地域コミュニティ意識の高揚に努める。	校区スポーツ振興会が毎年、主催の大会を開催している。	—	本校区は地域イベントの少ない地域である。本大会は子どもからお年寄りまで楽しみながら競技に参加できる、地域にとって貴重な大会である。	特になし。		地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民どうしの交流を図ることができた。	生涯学習推進課 社会体育振興費	
地域コミュニティ紙等発行事業	240	補助金 240	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	本協議会の活動内容を地域住民に周知するとともに、地域住民に必要な情報を発信するために、年に2回、まちづくり通信（広報誌）を発行し、全戸配布している。	9月と3月の2回、まちづくり通信（広報誌）を発行した。	毎年の発行実績により、地域住民の本協議会への認知度は向上している。五月丘の歴史をとりあげた歴史探訪シリーズは、新しく地域に引越してこられた方に地域の良さを紹介し、好評を得ている。	広報誌の発行や掲示板への掲示だけでなく、ホームページの開設やウェブを使ったPR方法も検討していきたい。		記事や写真が多く、読みごたえがある誌面となっている。文字重、レイアウトについては読み手の意見を聞き入れながら、検討していつてもらいたい。	秘書・広報課 自治振興費	
地域防災訓練強化事業	300	補助金 300	防災意識向上のため、ポスターの製作と自主防災組織また属さない人も一緒に、防災訓練や勉強会を実施する。	毎年開催の五月丘1丁目・アルビス五月ヶ丘・五月丘5丁目の自主防災組織主催の合同防災訓練を支援し、本協議会も自主防災組織のない地域住民の受け皿となり参加している。	5月に合同防災訓練を実施し、2月に「人と未来防災センター」を見学した。	災害への備え、防災についての知識、そして防災に強いまちづくりを目指し、地域の方々が生かせる関係構築の重要性を学んだ。	本校区は自治会の加入率が低く、自主防災組織のない地域住民が多いことが特徴で、本協議会が今後、いかにこうした地域の窓口となり、支援できるかを検討する必要がある。		訓練の実施が共助の推進に繋がることが評価。また、研修会で得た知識を災害発生時に活かすことを期待する。	危機管理課 自治振興費	
地域防災体制強化等事業	368	補助金 368	万が一の事態に備え、防災備品を備蓄する。	2018年の大阪府北部地震で、五月丘3丁目と4丁目の一部の地域で停電が続いた。緊急時の停電への備えが必要となった。	発電機と非常用ライトを購入した。	地震発生時や台風の襲来時など、停電への備えが可能となった。	発電機を含めた防災備品の点検・維持管理が重要である。		過去の災害の教訓を生かした事業内容を評価。	危機管理課 自治振興費	
コミュニティサロン設置事業	275	補助金 275	地域の人々に情報交換や交流の活動場所としてコミュニティサロンを月2回設置する。	毎月2回、コミュニティカフェ五月丘（C.C.S.）を開催している。	カフェでは様々なイベントを開催し、子どもからお年寄りまで楽しめる内容となっている。今年度から有償ボランティアとして本協議会以外の方にもスタッフとしてお手伝いいただいている。	本事業を初めて7年が経過した。地域住民の憩いや交流の場として定着している。	引き続き、有償ボランティアスタッフの募集を行う。		有償ボランティアを含め、運営体制の強化が図られたものと認識。更にその野が広がるよう期待するところ。	地域分庁・協働課 自治振興費	
盆踊り大会支援事業	230	補助金 230	地域団体が実施する、盆踊り大会の運営を支援する。	校区スポーツ振興会が毎年、主催の大会を開催している。	—	本校区は地域イベントの少ない地域である。本大会は子どもからお年寄りまで楽しめる、地域にとって貴重なおまつりである。本協議会としても地域の他団体と交流できるイベントであり、意義がある。	備品、用具等で老朽化したものがみうけられる、これらの更新を図る必要がある。		事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和元年度執行）

五月丘フェスタ開催事業	350	補助金	350	筑踊り、市民レクリエーションに次ぐ地域住民の交流・ふれあいの場としてフェスタを開催し、恒例行事として定着させる。	毎年、五月丘小学校で実施。内容は模擬店、ステージ、フリーマーケット、スポーツゲーム等。	運営面では、小・中学校関係者の他、地域のほぼ全ての他団体（自治会・地区福祉・民生・スポーツ振興会・PTA等）の協力・支援をいただいている。	本事業は、子どもからお年寄りまで幅広い世代が楽しめるイベントで、地域住民がつかうがる良い機会となっている。他団体との連携し、共に取り組んでいることに意義がある。	年々参加者が増え、主力会場である体育館が手狭になっている。ステージの内容、会場の選定、防犯、本部運営等まだまだ改善の余地があり、検討が必要である。	事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費
カルチャースクール開催事業	150	補助金	150	文化的な住民のふれあい・交流の場としてカルチャースクールを開催する。	2018年度からデジカメ教室を開催している。	10月・11月の2回、デジカメ教室を実施した。	作品は、本協議会が開催する「おしゃべり広場」の会場に展示し、地域の皆様にも楽しんでいただけた。	参加人数が少ないため、内容や参加者募集方法に改善が必要である。	参加人数の確保に努めていただきたい。実施場所について、費用対効果の観点から近隣の場所を検討いただきたい。	人権・文化国際課 自治振興費
花プロジェクト事業	150	補助金	150	小・中学校関係者とともに協働で地域の人が花を育て、花を通じて人々の心を豊かにする。	五月丘小学校の授業の一環として、また渋谷中学校のクラブ活動の一環として、年2回実施。	大阪府池田土木事務所、市教育委員会、小・中学校教職員、PTA、地域住民の有志が協力して、子ども達と一緒に苗の植え込みを実施。学校で育て、開花させた後は、他の小学校や幼稚園、自治会等に花を配った。	花を育てることを通じて子ども達の健全育成と、地域住民の心が豊かになることを期待する。	学校内だけでなく地域に花を増やして、地域全体の環境改善に役立てたい。	学校と地域住民が協働することで、地域緑化の推進と学校の環境学習にもなっている。	公園みどり課 自治振興費
高齢者等の居場所づくり事業	287	補助金	287	独居老人の安否確認、認知症等の予防、高齢者が生きがいを持って生活できるよう支援する場を提供する。	毎月第3日曜日に、「おしゃべり広場」を開催。参加者は地域のお年寄りが多く、麻雀・トランプ・塗り絵、囲碁など思い思いの事をされている。	今年度は、会場内でポッチャゲームを行った。	本事業は地区福祉委員会、民生児童委員の協賛を得て実施している。本協議会が他団体と協力して実施する事業は他にもあるが、定期的に実施している事業は本事業のみである。今後もこの関係を維持していく。	地域の皆さんが気楽に来てもらえるように、敷居が高いと思われぬように、気軽に参加していただける雰囲気づくりに努めていきたい。	高齢者の閉じこもり防止に役立っている。他団体の協力を得てスタッフ確保に努められている。地域に根付いた事業となっており評価できる。	高齢・福祉総務課 自治振興費
キッズランド支援事業	30	補助金	30	五月丘小学校で行われている「キッズランド」で使用する備品を購入し、充実したキッズランド活動を支援する。	-	卓球台と竹馬を購入。	本協議会は継続してキッズランドの活動を支援している。多くの子ども達が使用できるようになった。	特になし。	用具等が増えたことにより子どもたちの活動の幅が広がった。	教育センター 自治振興費
イベント運営事業	160	補助金	160	地域交流や地域活性化などに重点を置き、地域住民参加のイベントを行う。	グラウンドゴルフ、里山教室、五月山ハイキング、卓球教室を開催。	本協議会主催のイベントとしては6月・11月に里山教室を開催、12月にグラウンドゴルフ大会を開催。五月山ハイキングと卓球教室は校区スポーツ振興会主催のイベントでこれを支援。	イベントは地域交流・親睦が目的で、対象に合わせた行事（グラウンドゴルフはお年寄り向け、里山教室は子ども）を行うことで、幅広い年齢層に参加いただいている。また里山教室は五月山の自然を生かした五月丘らしい活動であり、子ども達の健全育成を図っている。	今後も地域交流イベントの企画を検討していく。	様々なイベントを通じて、地域住民どうしの交流を深めることができた。	生涯学習推進課 自治振興費
計	11,089			事業提案限度額	17,272千円	次年度繰越金額	6,183千円			

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和元年度執行）

神田地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課目（目）	
	交付金	補助金										説明
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	100									地域分種・協働課 自治振興費	
安全パトロール実施事業	391	321 70	地域の安全・安心の向上のため、パトロール隊が電動自転車でのパトロールを行う。	P T Aによる登校時の見守り活動は通学路を中心に実施されていたが、下校時を含め校区全体の安全パトロール体制がなかった。 H20年度からパトロールを開始することになった。	電動自転車による安全パトロール体制ができ、ボランティアを中心に下校時の校区内安全パトロールが実施された。（平成21年1月以降） 平成30年度につき、継続実施できた。 また、令和元年度に老朽化に伴いバッテリー交換不可のため新規に3台購入した。	安全パトロールによる直接の目につく効果はないが、地域住民に少しずつパトロール実施が認識されてきて、防犯意識の向上に役立っている。 また、P Rのためパトロール中の肩掛けも効果をあげている。	ボランティア人員の確保・増員が必要。 電動用バッテリーの交換が無理とのことなので新規自転車を購入する必要あり。 （令和元年度に3台購入して効果を上げていく。）	各部会からの報告を受け、役員会でまとめられたものを総会で決定する。	本年度は、江原川等の水路の転落防止柵設置に大きく提案枠を割いた結果、大規模な改修が実現したものと評価。 会員数の減少が進んでおり、協議会への参画者をいかに増やしていくかが重要であると認識するところ。	地域での一定の認知度の向上等は日頃からの地道な活動の積み重ねであり、評価がより一層の犯罪抑止に繋がることが期待される。	危機管理課 一般管理費/自治振興費	
防犯カメラ維持管理事業	63	9 54	事故や犯罪を未然に防ぐための防犯カメラが正しく機能するよう、保守点検等の維持管理を行う。	29年度に神田消防分団近辺・路地の中国道下の地下道に防犯カメラを2台設置合計3台の維持管理が必要。	3台のカメラについては、令和元年度も保守点検等の維持管理（電気料含む）費用が発生。	防犯カメラの映像がキチンとみれるようになった。 事故抑止効果が期待できる。	事故抑止効果をさらに高めるため、「防犯カメラ作動中」看板を大きくすることが必要。 （ドライバーからもよく見えるように）				危機管理課 自治振興費	
地域掲示板設置事業	1,138	1,138	老朽化した地域の掲示板を取り替え、また既存の掲示板の修理を行い、地域団体と共に使用出来るようにする。	過去に民間事業者が設置した掲示板を使用していたが、老朽化等もあり使えない状態が続いている。	ガラス扉付の掲示板を設置した。 29年度に4カ所追加設置した。 令和元年度には新規3台設置するとともに既存掲示板の改修（マグネット化）を実施。	雨水にも濡れなくなり、校区内各種団体にも活用されている。 掲示物の掲示・除去が簡単にできるようになった。	未設置箇所を調査し設置することが必要。				地域自治会とも連携し、広報に寄与している。引き続き適切な管理をお願いするところ。	地域分種・協働課 自治振興費
地域行事等活動促進事業	200	200	地域で開催される盆踊り等の行事を支援し、コミュニティ意識の高揚を図る。	神田小学校区盆踊り大会が、地域の寄付・市からの定額支援で実施されており、出店等の収益で予算不足をカバーしていた。	市からの定額支援より多くの金額の支援ができた。	地域行事の活性化が図れた。 令和元年度は天候にも恵まれ2日とも実施できた。	令和元年度から行事報奨金への変更した。今後も継続して支援金額の検討が必要。				予算執行は適正。支出（協議会への入金）時期について今後、要調整。	空港・観光課 自治振興費
A E D管理事業	126	126	地域内の各会館に設置したA E Dについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	コンビニ2カ所・早苗の森会館の3カ所に設置したA E Dの保守点検が必要な時期になった。	A E Dが正しく機能するように、パッド・バッテリーの交換を実施した。	3台ともA E Dとしての機能が発揮できる状態になった。	次の保守点検時期にキチンと対応すること。				共同利用施設・コンビニにA E Dを設置することで、多くの住民の安心感を得ることが出来ることと考える。今後も引き続きA E D設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていきたい。	健康増進課 保健衛生総務費
街路灯強化事業	27	27	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、街路灯の設置及び維持管理を行う。	街路灯不足・照度不足が多く指摘されていた。 （放火事件発生を受けた自主防災会・消防団による夜間パトロールで指摘）	20年度に町会・自治会から要望のあったものを中心に、街路灯新設・照度アップを実施。校区内の夜間が明るくなった。 維持費も発生。	校区内の夜間が明るくなったことにより、放火等への牽制効果が出ていると思われる。	町会・自治会組織の無い地域の街路灯強化が必要。 継続して街路灯設置要望を受け付けるようP Rも必要。 農地隣接の場所等に設置する場合は、高さ・向き等の調整が必要。 私有地に設置の場合地主の承諾書が必要となったが、地主をどのように調査するか検討が必要。				街路灯の設置により、地域内の夜間交通の安全確保が図られた。	道路・河川課 交通対策費
水路転落防止柵設置事業	6,000	6,000	農業用水路に転落防止柵のない場所が残っているため、設置をし安全対策を図る。	農業用水路に転落防止柵のない場所が残っている。	江原川右岸、その他危険水路に転落防止柵を設置。	水路への転落の危険がなくなった。	他に危険場所がないか常に危険場所の調査が必要。				江原川や用水路沿いの転落防止柵設置により、通行の安全性が向上した。	道路・河川課 交通対策費
市民レクリエーション大会事業	200	200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の高揚に努める。	神田小学校区住民運動会が、地域の寄付・市からの定額支援で実施されており、予算不足を盆踊り収益等でカバーしていた。	市からの定額支援より多くの金額の支援ができた。	地域行事の活性化が図れた。	毎年、助成必要金額の検証が必要。				地域スポーツの振興・地域住民へのスポーツ機会の提供、住民どうしの交流を図ることができた。	生涯学習推進課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	561	561	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にP Rするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	事務費予算の範囲内で年1回発行。（白黒印刷）	カラー刷りの広報紙を、年3回地域内全戸配布できた。 （22年度以降継続） 令和元年度は年2回の発行となった。（担当者交代などの理由で）	各種地域内団体の活動紹介をとりあげることができ、回数もふえたので地域への活動内容のP Rができた。	新規協議会メンバー・安全パトロールボランティアを継続して広報紙で募集を続けることが必要。 フォームマンション増加への対応が必要。 世帯数増加への対応は常時検討必要。 広報紙への広告掲載も継続して募集することが必要。				誌面をいっばいに使った多様な誌面構成となっている。文字量、レイアウトについては読み手の意見を取り入れながら、検討していったらいい。	秘書・広報課 自治振興費
神田地域コミュニティ広報事業	957	957	神田地域コミュニティ推進協議会の活動内容や地団体、神田の行事、歴史、文化をカレンダーにし、地域のコミュニティ意識の高揚を図る。	年3回の広報誌が唯一の広報手段であった。	神田地域コミュニティの活動内容や、神田の自然・行事・文化等の写真を使ったカレンダーを作成し、全戸配布した。 令和元年度も継続実施した。 広告掲載も4件となった。	神田地域内の写真等を通じて、神田地域のコミュニティ意識の高揚はかかれた。	地域行事・自然等の写真を広く地域住民に公募し、コミュニティ意識の更なる高揚を図ることの検討が必要。 住居の増加を常にチェックし発行部数の検討が必要。				地域の方からの問い合わせも多く、定着しているものと認識。マンネリ化しないよう、新たな展開を期待するところ。	地域分種・協働課 自治振興費
地域内会館備品整備事業	282	282	神田会館にこども文庫を設置し、絵本を見るために子どもが集まりやすい環境をつくる。	神田会館には道具以外にこどもが集まるような備品がなかった。	こども文庫を設置し、絵本をみるためにこどもが集まりやすい環境をつくる。	マット・絵本を購入し、いざこども文庫を開設しようとした矢先にコロナ関係で会館の利用ができなくなった。	令和2年度に入り、コロナ騒動が収まってからこども文庫を開設・P Rに努める。 また、新規絵本購入方法の検討も必要。				会館の利便性が向上した。子ども文庫の運用については、会館運営委員会ともしっかり協議することをお願いするところ。	地域分種・協働課 自治振興費
地域内会館備品運営事業	342	342	神田会館に整備した備品の運用を行う。	パソコン・コピー機等が不具合。（個人の機器の使用・コンビニでのコピー）	ノートパソコン・複写機をリース、書類・パソコン等の保管用の保管庫も購入。	個人の機器の使用もせずすみ、協議会用書類も安くコピーできるようになった。	専用の事務室の設置、併せてファックス用の電話設置が必要。 コピー機も他団体が利用できるように検討が必要。				早期に運用基準を設けるなど、適切な管理をお願いするところ。	地域分種・協働課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和元年度執行）

神田フェスタ開催事業	150	補助金	150	盆踊り、市民レクリエーションに次ぐ地域住民の交流・ふれあいの場として、フェスタを開催し、恒例行事として定着させる。	地域住民の交流・ふれあいの場としては、年1回の盆踊り・運動会のみであった。	令和元年度も年3回の神田フェスタを開催予定していたが、今年にはいつのコロナ感染の問題で3月予定のフェスタは中止となった。	回を追うごとに参加者も多くなり、次回への期待の声が多くなってきた。	参加者の増加・高齢者が多いということで開催場所の設定がむづかしくなってきた。 (神田地区中心部にある民間設備の利用も検討)	事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費		
神田地域花いっぱい運動支援事業	134	補助金	134	地域内の公園に花壇を設置し、地域ボランティアにて維持管理を行いながら、緑化の推進を図る。また神田小3年生とPTA、地域が一緒になって花を育て、学校や街に植えつける。	地域内の公園には花が少なく、手入れも不十分であった。	公園3か所に花壇を設置、定期的に花の入れ替え・水やり等ができるようになった。 (神田花の会メンバーが対応) また、令和元年度から神田小学校3年生とPTA、地域が一緒になって花を育て、学校に植えたり、地域の施設・団体に贈呈することも始めた。	常にきれいな花がみれるようになって利用者から好評を博している。	他の公園他花壇など必要な場所がないか検討が必要。			学校と地域住民が協働することで、地域緑化の推進と学校の環境学習にもなっている。	公園みどり課 自治振興費
キッズランド支援事業	150	補助金	150	こどもパソコン学習教室を小学校・キッズランドと連携して開設し、パソコン操作等の指導を行う。	キッズランドのパソコン教室用備品が不足し、十分な活動ができなかった。	パソコン教室として必要なトナー、用紙類を支援することにした。	パソコン教室事業の充実及び参加者の増加が図れた。	毎年、備品購入必要金額の検証が必要。			キッズランドにとって充実した活動の支援に寄与している。	教育センター 自治振興費
計	10,821			事業提案限度額 13,417千円	次年度繰越金額 2,596千円							

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和元年度執行）

ほそごう地域コミュニティ推進協議会（伏尾台地区）

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金	100								地域分権・協働課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	96	電気使用料 15 設備保守点検委託料 81	校区に設置した防犯カメラの維持管理を行う。引き続き地域内の犯罪の抑止と住民の安全・安心な生活環境を確保する。	H22年度に伏尾台への出入口道路である国道側と川西側の2か所に通過車両を撮影できる防犯カメラを設置した。 H24年度に第2コモン南側と細河中学校の南側交差点に防犯カメラを設置した。 H25年度、北高校の周回路北側の中央付近から西方向に向けて1台、同周回路の南東のT字交差点に東西方向に向けて2台の防犯カメラを設置した。 H26年度、北高校の周回路北側の中央付近から東方向に向けて1台の防犯カメラを設置し、旧伏小付近を撮影可能にした。伏尾台への出入口道路である国道側と川西側の2か所に設けたカメラ支柱を利用して夜間撮影が強化されたカメラを増設した。 14台の防犯カメラの設置によって、地域に出入りする車両並びに歩行者をきれなく撮影し得る状況となった。また、既設カメラとレコーダーはメンテナンスされた。 H28年度、H22年度の4台が市の維持管理下に置かれ、H29年度は、協議会の維持管理下にある防犯カメラは10台となった。 H30年度は、新吉田橋北側の国道に向けてのカメラが撤去され、国道交差点に市の無線管理カメラが設置された。川西側への出入り口のカメラも市の無線管理カメラに交換されて、地域に出入りする車両並びに歩行者をきれなく撮影し得る状況で、緊急時の記録の開示要求に応じられる体制となった。 また、旧北高周回路の南東のT字交差点に東西方向の2台のカメラのうち、東側のカメラが市の無線管理カメラに交換された。事業提案の既設カメラ6台がメンテナンスされた。 さらに、声かけやいたずら事案が報告されて設置を危機管理課へ要望していた。中央公園のトイレ付近の防犯カメラが、H30年度に設置された。	本年度は、H26年度設置した、北高校の周回路北側の中央付近から東方向に向けて夜間撮影用カメラ1台、伏尾台への出入口道路である国道側と川西側の2か所のカメラ支柱を利用した夜間撮影用カメラ2台の計3台を協議会で管理することになった。	警察の捜査にも協力でき、同時実施の安全パトロール事業での青パトロール車の巡回、地域内の防災防犯委員会並びに自治会の防犯活動と相まって、毎年空き巣事件0を更新していたが、H27、H28年に侵入盗が各1件発生した。 H26、H27年、認知症の方が行方不明になったが、伏尾台から出ていない記録が確認でき、住民で捜索して無事発見できた。 H29年度は、例年通りの数回の池田署からの開示要求があり、立会い対応を行なった。 H30年度以降は、池田署からの開示要求に伴う立会いを行っていた防犯カメラが市の管理カメラに交換されたことにより、立会い対応を行う必要がなかった。 H30年度に設置された中央公園のトイレ付近の防犯カメラにより、声かけやいたずら事案の報告がなくなった。 10年間の間、伏尾台内に多数の防犯カメラが設置、維持されていることが、地域の防犯に対する関心の高さを示すことになっており、侵入盗や窃盗などの犯罪抑止に今後とも有効である。	必要箇所には防犯カメラが設置されているので、地域内に防犯カメラの増設を行うべき特段の理由はなく、また、今後の維持管理も市の業務となるため、協議会で行う管理は、定期的な外観からのチェックであるが、動作状況の見守りが主なものとなる。 しかし、特に落雷によるサージ電流により作動が停止することがあるが、既設のいずれもが目視等で確認することができず、市の年1回のメンテナンスではメンテナンス後の落雷の影響を確認することができない問題は依然として残る。	継続事業の中でも、いろいろ工夫を凝らしていただきながら事業実施いただいたものと認識。コミプラ、西公園事務所に加え、はぐのさとの利活用も課題となる中で、今後さらなる体制強化が必要であるが、うまく連携することで新たな展開が生まれ出されるものと期待するところ。	適切箇所に設置し、運用している点を評価。今後も継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む。	危機管理課 自治振興費	
地域掲示板設置事業	250	修繕料	250	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるため、掲示板を設置し、地域団体と共に使用出来るようにする。	阪急バスの北中央公園バス停は、伏尾台3丁目北東側周回路沿いに設けられており、2丁目の街区のほかが常団地、A団地、ビュローハイツ、並びに3丁目東側街区に接しており、新設されて以来利用者が多く、伏尾台センターバス停の乗降者が減り、人の流れが変化している。 この現状に鑑み、本協議会の活動などの情報の広報を行うために掲示板を新設整備する。	北中央公園バス停の乗り込み口側に新設された掲示板に、本協議会、自治会、防災防犯委員会などの活動に関する掲示物を掲示し、活動の広報、啓発活動を行うことができた。	ガラス屏の中に掲示できるので、耐候性に優れており、掲示物の劣化が少なく身時管理が容易になった。また、北中央公園バス停での掲示効果は乗降客が多いことから大変大きく、地区福祉委員会からの掲示依頼が多くなった。	ガラス屏で耐候性に優れているが、耐光性に関しては普通ガラスのため、また、雨日がかもとも長時間当たると、カラー掲示物に関しては、退色が著しく、黄色や赤色がすぐに退色する。UVカットフィルムを貼るなどの対策が必要と考える。	地域の広報に寄与しているもの。地域内各団体と連携した利用及び適切な管理をお願いするところ。	地域分権・協働課 自治振興費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和元年度執行）

<p>地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業</p>	<p>1,980</p>	<p>建物借上料 500 補助金 1,480</p>	<p>地域住民への協議会活動及び地域分権のPRを目的として協議会活動拠点を運営を行う。</p>	<p>コミュニティ推進協議会の活動拠点としての西公園事務所は、伏尾台周回道路沿いで西公園南側と目立つ場所に看板と掲示板を設置して広報活動を行っている。 また、西公園事務所は、地域の「防災・防犯委員会」の活動拠点として、会館他、年末の防犯防火の巡回拠点として活用してもらっている。さらに、地域内に季節毎の花を植える活動を行う地区福祉委員会の「花の会」の活動拠点として利用してもらっている。 平成27年10月3日に伏尾台コミュニティプラザを開設してそこに協議会事務所機能を移して、フリーサロン、子育て支援ルーム、まちの情報センターの運営を行なった。このプラザ事務所には光ケーブルを引きこピー・ファックス複合機を備えて事務所機能を充実させた。 西公園事務所とプラザ内事務所との両方で活動を実施した。西公園事務所は、元来劣化していた床の損傷が進行したため、東側の半分の床の張り替えを行なった。 平成30年度の伏尾台創生会議2020の事務や打ち合わせ、会議なども本事務所、コミュニティで行われた。 伏尾台地域に入ってくるすぐの自立立地条件のもと、webでの「伏尾台コミュニティ推進協議会」と表示され、そのストリートビューには黄色い看板が目立っていたが、強風の台風で落下寸前となったため、直ちに撤去した。 月曜日から金曜日のコミプラの開館日に、3交代でスタッフが留守番を行い、閉館後にホールとトイレの清掃を行い、コミプラの維持管理を行った。 コミプラ内の子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名であった。</p>	<p>西公園事務所とプラザ内事務所との両方で協議会活動を実施した。 月曜日から金曜日のコミプラの開館日に、3交代でスタッフが留守番を行い、閉館後にホールとトイレの清掃を行い、コミプラの維持管理を行った。 地域活性化事業の伏尾台 山びこコンサート、落語の開催と事務処理等もコミプラ、本事務所で行なった。夏祭り実行委員会の事務や打ち合わせ、会議なども本事務所、コミプラで行われた。</p>	<p>コミュニティ推進協議会はもとより、防災・防犯委員会並びに地区福祉の花の会の活動拠点として、それぞれ活用されている。 伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で7,386名である。子育て支援ルームのみの利用者は、2,176名であり、フリーサロンなどは 5,210名が来訪された。</p>	<p>コミプラのフリーサロンの利用者数は例年同様にあることから積極的な利用を望みたい。高齢者の居場所づくりを充実させたい。また、子育て支援ルームの利用は年々減少していることは、人口減少もあるが、未就園児以外の利用も考えるが、安全性の確保が問題となる。社協のファミリーサポート事業の会場として利用できるようにしているが、利用者の増加には結びついていない。 プラザ事務所としては、コミュニティプラザがボランティア支援を含む「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、今後ともまちの不動産情報、特に空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。 コミプラの留守番役のスタッフ、掃除スタッフを現在15名でローテーションを組んでいるが、依然として絶対数が不足し、募集を行うも応募がほとんどないことが、運営上切迫した問題である。 トイレの利用率が多くなっており、掃除スタッフの不足が衛生上の懸念として上がってきた。 複数年度の事業検討として、伏尾台の特色ある公園作りを目指しており、西公園の再整備案とともに、西公園事務所には、遊歩道側に独立したトイレが設置されているので、これを整備して遊歩道側に解放することで、散歩中の人や隣接する西公園を訪れる地域の方に利用してもらえようしたい。</p>		<p>事務所スタッフが前年度より増えており、一定の体制強化が図られたものと評価。引き続き安定運営のためにも人員確保に努めていただきたい。</p> <p>地域分権・協働課 自治振興費</p>
<p>コミュニティサロン設置事業</p>	<p>600</p>	<p>建物借上料 500 補助金 100</p>	<p>地域の人々が立ち寄り、世代を超えた交流の活動場所としてコミュニティサロンを伏尾台コミュニティプラザに設置する。</p>	<p>伏尾台には2つのコミュニティセンターがあるが、利用には事前予約が必要であり、散歩の途中に立ち寄り休憩する処、待ち合わせや談笑する処、急に自治会の役員同士が打ち合わせする際など、気軽に利用できる施設がなかった。 平成27年10月伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに斡旋、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には年別に記載をお願いした結果、10月3日より平成28年3月31日までの実績で3200名を超えた。 平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名で、子育て支援ルームのみの利用者は、2,309名であり、フリーサロンなどへは 5,288名が来訪された。 里山の植物を紹介しているグループの展覧会場として利用された。 総務省の推進事業で、池田市の伏尾台送迎サービス社会実験の会場として10月から12月に利用され、協議会会員がボランティアとして参加した。 地域交通の未来を考える公開講座の会場として利用された。</p>	<p>利用の形態は、日課の散歩の途中で休憩を取る方、待ち合わせやバスの時間待ちを行う方、フリースクールに通う生徒との待ち合わせを行う保護者、趣味の鍛錬などをグループで行う方、自治会やサークル活動の打ち合わせ、小学校、中学校の宿題をグループで行う生徒、談笑するグループ、読書、昼食をする親子、孫と絵本を見る高齢者、買い物帰りに商品に仕分けする方、食事をする学生などまさにフリーサロンとして利用されている。 宿題カフェ会場として利用されている。 ほそごう学園の地域学習の会場として利用されている。 高齢者の居場所づくり意見会の会場として利用した。 山びこフェスタの落語の会、音楽会の会場として使用した。 令和2年1月より始まった「伏尾台送迎サービス」、地域内限定の無料の送迎サービスにおいて、送迎の始点、終点のポイントとして機能している。</p>	<p>伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で7,386名である。子育て支援ルームのみの利用者は、約2,176名であり、フリーサロンなどは5,210名が来訪された。</p>	<p>さらに利用者を増やすために、積極的に地域の住民が主催するイベント、講演、各種教室などの企画とともに、一時保育食の運営、高齢者と子どもたちが一緒に夕食を食べる「コミプラキッチン」の運営を行うなどの活動が必要であると考えている。 また、コミプラ自身が「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、今後はまちの不動産情報や空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。</p>		<p>平時のサロンとして、広く地域内で認知され利用されており、コミュニティの醸成に寄与しているものと認識。今後、イベントなども含めて、さらに利用者の裾野が広がることを期待するもの。</p> <p>地域分権・協働課 自治振興費</p>

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和元年度執行）

<p>まちの情報センター運営事業</p>	<p>600</p>	<p>建物借上料 500 補助金 100</p>	<p>地域のあらゆる情報を提供し、ボランティア活動者に対して情報発信や研修を企画、またコンビニ交付サービス端末を設置した。まちの情報センターを伏尾台コミュニティプラザに設置する。</p>	<p>伏尾台にはコミュニティセンターやバス停の掲示板があり、自治会からのお知らせなどが掲示されているが、ボランティアの需要や供給に関する情報収集や提供がなかった。 平成27年10月伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに斡旋、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には、名簿に記載をお願いしており、10月3日より平成28年3月31日までの実績で3200名を超えた。 平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名で、子育て支援ルームのみの利用者は、2,309名であり、フリーサロンなどへは 5,288名が来訪された。</p>	<p>フリーサロンの壁を掲示板として活用し、まちの情報を、「地域学校行政」「地域環境」「安心安全」「協議会」「コミュニティ」「子育て支援」「各種支援」「ボランティア活動」のカテゴリーに分けて種々掲示している。各種の活動紹介の依頼や、ボスターの掲示を願ひ出られるなど多くのグループに利用されている。 ほこころ学園、フリースクール、地区福祉、社協、池田署、防犯委員会、人権文化交流センター、池田市公益活動促進協議会の広報紙などを展示している。 市のキオスク端末が設置されて、行政証明書の発行手続き、写真印刷やコピーに住民が利用している。</p>	<p>伏尾台コミュニティプラザに設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で7,386名である。 子育て支援ルームのみの利用者は、約2,176名であり、フリーサロンなどへは5,210名が来訪された。</p>	<p>フリーサロンは、日々は子育て支援ルームに訪れる母子、ほこころ学園の生徒が中心に利用しており、山びこフェスタのイベントの際や自治会、伏尾台創生会議、伏尾台夏祭り実行委員会などの会議の際には、伏尾台住民が多く利用されるので、「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、今後もボランティア活動のみでなく、まちの不動産情報や空き家対策事業とともに広範囲の情報センターとして機能させたい。 キオスク端末の利用者数が、マイナンバーカードの普及率がまだ低いので、大きく増加することがない。</p>		<p>地域の情報拠点としてコミュニティの活性化に寄与しているものと評価。積極的に情報収集いただきさらなる充実が図られるよう期待すること。</p>	<p>地域分権・協働課 自治振興費</p>
<p>子育て支援環境整備事業</p>	<p>780</p>	<p>建物借上料 500 補助金 280</p>	<p>幼児をもつ母親の子育て環境改善とコミュニケーションの場づくりを行うため、スペースの確保と用品等の拡充を図る。</p>	<p>平成22年度より、伏尾台第1コミュニティセンター内の一室を使用し、幼児向けの備品を整備し、乳幼児を育てる母親に気軽に集まれる場所として提供し、これを運営する子育て支援グループを立ち上げた。その後も毎週、部屋が開設される日時を決めて、無料登録制で参加者を募集する方法で運営している。 平成26年度は、会員は67組(134人)、ボランティア会員(12名)で構成され、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて、子育てサロン「フレンズ」を開設した。年間、121組(延べ242人)の利用があった。上記活動の他、七夕とクリスマス時期の年2回、入園前会員宅を訪問して、手作りカードの贈呈、子育ての悩み等の聞き取りを行う活動を、延べ80回(延べ246名)行った。子育てサロン「フレンズ」を卒業した会員による「親子で遊ぶ会」を8月と12月実施し、23組(延べ46人)の参加があった。 平成27年度は、4月から9月は32組、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて子育てサロン「フレンズ」を開設した。母子9名、スタッフ7名、延べ171名会員があった。10月3日より、伏尾台コミュニティプラザが開設されて、子育て支援ルームにて活動を行う。10月3日から3月末までの半年間では、子育て支援ルームにて、母子1202名、スタッフ241名、延べ1443名の利用があった。 平成28年度は、登録会員数は76組、利用者数は母子2,276名・スタッフ393名の延べ2,669名であった。平成29年度は、登録会員数は80組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,371名であった。 登録会員数は30組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,309名であり、ママの会、卒会員幼稚園児夏休みの集い・AED講習会・ほこころ学園スクールカウンセラーとの交流会2回を開催した。 社協のファミリーサポート事業との連携を進めた。</p>	<p>コミプラ内子育て支援ルーム登録会員数は90組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,309名となり、母子交流の場として定着し、孤独な子育てから親子を守るという目的を達成することができている。 利用者数は年々減少傾向にあり、伏尾台の人口構成からやむを得ないこともあるが、利用者を増やすために、社協のファミリーサポート事業との連携して、支援ルームでサポートが行われるが、利用数の増大には至っていない。</p>	<p>協議会主催のフレンズを中心に、社協子育てサロン、ホップ君、自主サークルひよこ連携しての場となっている効果は大であり、郷河地区や、池田市内、里帰り母の利用も増え、ほこころ地域の親子の絆が深まる効果が出ている。 ママの会、卒会員幼稚園児の夏休みの集い・AED講習会・ほこころ学園スクールカウンセラーとの交流会を開催し何れも好評を得た。 月に二度、伏尾台文庫に依頼しての読み聞かせ会が、本に親しむ機会となり、七夕・クリスマスに手作りカードを持参しての恒例の家庭訪問実施は悩み相談の機会となっている。</p>	<p>幼児や未就園児を対象に子育て支援を行っているが、園児や小学校低学年の子供たちの支援を要望される保護者や家族が多いため、幼稚園児の受け入れを開始したが、乳幼児は行動・遊戯玩具が異なり、乳幼児向け支援室での受け入れは課題が多いため、H30年度半ばから受け入れを中止した。 新たな未就園児の親子への広報活動並びに新規登録等の事務処理、さらに就園となった親子との交流、相談で訪れる母親への支援者が全く足りない。 3月は、新型コロナウイルス感染症の拡散防止のため中止した。今後の開催方法を、感染防止策とともに考えなければならぬが、概して若い母親たちは、感染防止にいて関心が薄いように見受けられる。</p>		<p>親子が居心地よく過ごせる場所として地域に定着していると評価。引き続き、本市の子育て支援事業と連携しながら活動と充実させるとともに、地域の人的資源の発掘に期待している。</p>	<p>地域分権・協働課/子育て支援課 自治振興費</p>
<p>AED管理事業</p>	<p>10</p>	<p>消耗品費 10</p>	<p>地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。</p>	<p>阪急バス車庫事務所、伏尾台センターコープ店舗内に設置した。これまで使用されたことがないが、緊急時に備えてメンテナンスが必要である。平成29年度は伏尾台センターコープ店舗内に設置したAEDにおいて、設置から7年を経過したAED装置本体を交換して、引き続き使用可能な状態を維持した。</p>	<p>伏尾台センター ミニコープ内に設置したAEDにおいて、パッドを交換して、引き続き使用可能な状態を維持した。また、定期的に設置状態の確認を行うことが必要であり、これを実施している。 阪急バス事務所の場合はこの場所まで取りに行くことよ緊急車を呼ぶ方が効率的であると想定できるため、同事務所のAED本体の交換時期が到来した場合、その設置を継続しないことを確認し、本年度で撤去された。</p>	<p>毎日、午前9時から午後9時まで開店しているコープ店舗内に、AEDが使用可能な状態で常備されることになった。</p>	<p>毎年9月に防災防犯委員会の委員で使用訓練を実施し、毎年11月に総合防災訓練で参加者に使用体験を実施しているが、さらに住民向けの使用訓練の機会を設けることが必要である。</p>		<p>コンビニにAEDを配置することで、多くの住民の安心感を得ることが出来ると考え、今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていただきたい。</p>	<p>健康増進課 保健衛生総務費</p>

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和元年度執行）

<p>市民レクリエーション大会事業</p>	<p>200</p>	<p>行事報償金 200</p>	<p>地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の高揚に努める。</p>	<p>伏尾台校区住民がスポーツに親しみ気軽に参加できる機会を設け、幼児から高齢者まで楽しみ交流を深めて地域の活性化を図る目的で、伏尾台校区市民レクリエーション大会実行委員会を組織し、自治会連合会の協賛のもと、伏尾台大運動会を行ってきた。各自治会の組織率の低下にともない、自治会からの参加者並びに協賛金も大きく低下している。</p> <p>主に夏祭りの開催に要する労力が大いなる負担として、組織率の大幅な低下を理由に自治会連合会を脱会する自治会が出ることにより、平成26年度末で自治会連合会が解散となった。</p> <p>これにより平成27年度の自治会連合会による参加者集めができなくなるため、運動会中止が懸念された。</p> <p>平成27年度から夏祭りが住民有志による実行委員会形式で開催されることが同年4月に決定されることに伴い、運動会開催に自治会が参画することが決定された。</p> <p>この後も、毎年4月の年度初めに、伏尾台夏祭り実行委員会と伏尾台スポーツ振興会とが、5地区の自治会と話し合いを行い、自治会が夏祭りや運動会の後援を行うことの意味確認を行っている。</p>	<p>平成31年度も夏祭りが住民有志による実行委員会形式で開催されることが4月に決定され、自治会の負担が減少することから、運動会開催には、各自治会が参画することが決定された。</p> <p>自治会協賛金の低下を補う形の補助金として、必要な運営費用を賄うことが可能になった。</p> <p>毎年、参加者の高齢化と運動量の減量を求める意見を考慮して、午前中心のプログラムに変更した結果、多くの住民が参加して楽しめるスポーツ大会を開催できた。</p>	<p>実行委員会並びに自治会の役員、ボランティアスタッフとともに運営が積極的に行われ、又、各自治会の参加者募集の努力がなされ、ここ数年は、参加者数がようやく前年並を維持できる運動会であった。</p>	<p>協議会と本事業の実行委員会とは、本事業についての協議が十分には行われていない。</p> <p>協議会としては、少子高齢化が急速に加速する伏尾台では、幼児から高齢者までスポーツを楽しみ交流を深めて地域の活性化を図る初期目的に立ち返り、ゲームの要素を取り入れたたり、1日1～2時間を四季ごとに行うなど、従前とは異なる別形態の運動会を提案している。また、細く地域で行われている子供中心のミニ運動会の開催も有効であると考えている。</p>		<p>地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民どうしの交流を図ることができた。</p>	<p>生涯学習推進課 社会体育振興費</p>
<p>地域コミュニティ紙等発行事業</p>	<p>300</p>	<p>補助金 300</p>	<p>地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。</p>	<p>伏尾台では、協議会の広報紙の発行に際し、紙面の作成、印刷、地域全戸配布の全てを、協議会会員のボランティアで実施し、費用は紙代等の実費のみであったが、協議会員への負担は極めて大きかった。</p> <p>平成26年度の第12号広報より市の広報紙と対し全戸配布した。さらに、2月末に市の広報紙と共に、平成19年に発足し8年を経過した伏尾台コミュニティ推進協議会の活動の成果を地域の地図を用いて紹介した第13号広報を全戸配布した。</p> <p>さらに伏尾台地域活性化事業で行う3回の「山びこフェスタ開催案内」ポスター、回覧の広報活動を協議会員の手配りで実施した。</p> <p>平成27年9月末に市の広報紙と共に第14号、新設の伏尾台コミュニティプラザの様子を表紙にした広報を全戸配布した。</p> <p>平成28年2月末に市の広報紙と共に第15号、子育て支援ルームの様子を表紙にした広報を全戸配布した。</p> <p>平成29年3月に、「伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言」の横断幕が設置され、ライトアップ機が装着された新吉田橋の様子をカラー表紙にした広報紙第16号を伏尾台地区の全戸に配布した。</p> <p>平成29年8月26日の第43回伏尾台夏祭りの夕方の様子をカラー表紙にし、平成29年度の本協議会が行なった実施事業をカラー写真で紹介し、下半期の行事予定を記載した広報紙第17号を同10月に伏尾台地区の全戸に配布した。</p> <p>平成30年3月末、平成19年に発足し10年を経過したコミュニティ推進協議会の活動の成果を、青ハトが走る年表の表紙と見開きページの地域地図を用いて紹介し、今後に向けての活動方針と歴代会長のコメントを記載した広報紙第18号を全戸配布した。</p> <p>平成30年10月7日の第39回伏尾台大運動会の様子をカラー表紙にし、平成30年度の本協議会が行なった実施事業をカラー写真で紹介し、下半期の行事予定を記載した広報紙第19号を同10月に伏尾台地区の全戸に配布した。</p> <p>平成31年3月末、平成最後の1～3月に開催した創生会議の土曜祭の会場となった旧伏尾台小学校南校舎を表紙にし、見開きページに協議会の下半期の活動、平成31年度の提案事業、地域創生プランが創生会議から協議会に引き継がれる旨の報告を記載した広報紙第20号を全戸配布した。</p>	<p>ふしおだい第21号は、令和元年11月に全戸配布され、第30回やまびこフェスタの落語風景を表紙にして、コミ協の上半期の活動を報告し、下半期の活動予定を広報している。</p> <p>ふしおだい第22号は、「はぐのさと」オープン記念際の際のコンサート風景を表紙にし、防災、子育て、高齢者の居場所づくり、地域交通インフラ整備、などの活動を広報し、旧伏尾台小学校の跡地活用の具体化をコミ協が進める旨について広報し、令和2年1月より「伏尾台送迎サービス」、地域内限定の無料の送迎サービスが開始されていることを広報している。</p>	<p>平成29年度から定着した、上半期、下半期の年間2回、カラー版で個別の全戸配布の広報紙とすることで、活動の紹介、協議会入会、アンケート回収や安全パトロール隊員の応募などを広報できた。</p> <p>特に、平成30年3月末発行の広報紙第18号は、地域分権制度の10年とこれからの活動を紹介した特別号採擇版としており、8年間の活動を紹介した第13号と同様に全戸配布以外に約150部を余分に印刷しており、協議会活動の紹介紙として活用できている。</p> <p>また、広報紙第22号により、送迎サービスの会員登録が200名を超えた。</p>	<p>「山びこフェスタ開催案内」のポスター、回覧チラシにより、イベントが盛り込まれたが、会員の負担を減らすために「山びこフェスタ開催案内」をe-mail、ホームページ、SNSなどで広報できるように考えていきたい。</p> <p>地域コミュニティ誌自体の形態をもっと安価に効率よく伝達できるものに変化させる必要がある。</p>		<p>レイアウトや記事の配置など、とても見やすいものになっている。今後も読み手を意識した誌面作りを期待。</p>	<p>秘書・広報課 自治振興費</p>

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和元年度執行）

<p>安全パトロール実施事業</p>	<p>450 補助金 450</p>	<p>地域安全パトロールを実施し、地区内の安全・安心の向上を図る。</p>	<p>実施前は小学校の登校時に、主に民生委員等による見守りがあった。平成20年9月より実施し、当初小学校の登校日を中心に、H20年は、1回1時間、1日6回のパトロールからスタートし、H21年は、1日4回に組み直して実施した。 H24年は、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻に応じてスケジュールの見直しを行った。H25年度は、1回1時間、1日2～3回のパトロールを実施した。 H26年度は、登校予定日、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻の違いに応じて、より細かくパトロールスケジュールの見直しを行い、月曜日から金曜日の間、7時30分から1時間、15時50分から1時間、19時から1時間の1日3回のパトロールを実施した。 H27年度以降は、小中一貫校のほそごう学園に統合されたことにより、細河地区の中学生、小学生はスクールバスで登下校することになり、主に伏尾台地区の小・中学生の登下校を見守ることになった。 朝の登校時に定立立ちを主に行う挨拶運動、下校時に合わせた午後のアナウンスを行う走行によるパトロール、夜間アナウンスが可能な時間帯の走行によるパトロールを継続して行った。 H27年10月以降、コミュニティプラザを開設してからは、青パト車の駐車場をプラザの南側に設定できたので、隊員のアクセスが良好になった。 H30年、大遊協から提供された青パト車が配備された。同時に、除隊の申し入れが多くなり、隊員補充が全く進まず、2台のパトロール体制の構想が実現できていない。</p>	<p>巡回スケジュールは、日中は、ほそごう学園の開校日並びに登校・下校時刻に合わせて行い、巡回のみならず定点パトロールと挨拶を実施し、また、夜間の巡回を併せて行うように計画した。 安全パトロールは、通年、一回当たり1時間これを実施した。 巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするように心がけた。</p>	<p>パトロールを継続して行った結果、空き巣等の防止に繋がりを、防犯カメラ事業との相乗効果も有り、毎年空き巣犯罪"0"を更新できていたが、H27、28年度は侵入盗事件が各1件発生した。また、29年、30年、31年度共に不審者情報が多回数寄せられているため、巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするよう隊員に要請した。 朝のパトロールは走行よりも主に定立立ちとし、小中学生を始めとする学生、通勤者らにあいさつや声掛けを積極的に行うことができた。 下校時並びに夜間の巡回時には、車載スピーカーを用いた放送により、登校下校時の子供の見守り、戸締まり方法、不審なセールス、アンケート調査への注意、夜間の不法駐車禁止を呼びかけることができた。</p>	<p>隊員の減少と現隊員からの出勤の曜日や時間帯の変更の申し出、さらに夕刻以降の業務希望者が限定されるため、運行スケジュール立案が事務担当者の大きな負担である。 運行スケジュールの立案とともに、実施希望の更新講習会の開催手配と、保険加入申込み、車両の整備、燃料補給などの事務方の処理量が増大している。 隊員の高齢化が進み、80歳を機に除隊の申し出が多くなった。パトロールにおいて、幸い事故は全くなく、このまま安全にパトロールができることを願っている。</p>	<p>日々の地道な活動が地域の安全を確保している点を評価し、今後も継続的な活動を期待する。</p> <p>危機管理課 自治振興費</p>
<p>防犯防災啓発事業</p>	<p>200 補助金 200</p>	<p>地域住民の防犯・防災意識を高めるため、体験訓練を行うとともに巡回パトロールを啓発するための用品等を購入する。</p>	<p>伏尾台防災・防犯委員会は、地域の5つの自治会より配分される50円×1200戸以下の予算で運営されている。毎年の総合防災訓練は、参加人数が300名程度で自治会からの配分予算では厳しい状況である。（平成30年度1161戸毎年減少） 平成29年度は、4月22日防犯教室を開催し30名の参加を得た。 6月3日住宅耐震対策研修会を開催し48名の参加があった。 7月8日、4箇所の防災備蓄倉庫の資機材点検を行った。 8月5日と6日に旧伏小にて防災キャンプを実施し、45名の参加を得た。星空観察会の60名とともに避難所設置を見学した。 8月26日は、伏尾台夏祭り会場で本委員が延べ42名にて無線機を使用して交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。 10月7日防災訓練役割分担訓練を行い58名の参加を得た。11月5日はほそごう学園にて防災総合訓練が行われ300名の参加を得た。11月25日、高槻京大震災観測所見学会を開催し、16名の参加を得た。12月27日、29日、30日の年末特別警戒には延べ105名が参加した。 2月3日、災害時に役立つ防災グッズづくり実習会を開催し、39名の参加を得た。 平成30年度は、4月21日防犯教室を開催し35名の参加を得た。6月18日大阪北部地震に伴い地域内の安全確認、点検を行った。 7月8日、4箇所の防災備蓄倉庫の資機材点検を行った。 8月4日に、災害時安否確認対策として災害時声かけ協力員の登録制度を整備して、88人の登録を得た。 8月25日は、伏尾台夏祭り会場で本委員が延べ45名にて無線機を使用して交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。 10月6日に安否確認・避難誘導マニュアル訓練を行い58名の参加を得た。10月19日に普通救命講習受講13名参加。 11月4日はほそごう学園にて8年生全員が学校行事参加し防災総合訓練が行われ350名の参加を得た。11月15日、大阪府警本部交通管理センターの見学会を開催し、23名の参加を得た。 12月27日、29日、30日の年末特別警戒には延べ110名が参加した。 2月2日、大阪府警本部主催の特殊詐欺撲滅特別キャンペーンに参加、18名の参加を得た。 3月2日、安否声かけ協力員とともに合同の阪神淡路での声かけ避難誘導・避難所体験講習会を開催し、60名の参加を得た。</p>	<p>4月25日午後7時より防犯教室を開催。45名参加 6月2日は、防災サイレン鳴動聞き取り訓練に22名参加。 6月3日、災害時避難所開設と運営訓練で59名が参加した。 8月24日は、防災・防犯委員会が伏尾台夏祭り会場で、延べ37名にて交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。 9月19日、消防署にて普通救命講習を9名が受講した。 11月3日は、ほそごう学園にて防災総合訓練が行われ、参加者は450名に達した。 12月27日、29日、30日の年末特別警戒には、延べ105名が参加した。</p>	<p>池田市内の特殊詐欺被害が増大しているが、伏尾台でも電話を受けた人の体験談を多く聞くことができ、被害防止の意識が高まった。 災害時避難所開設と運営訓練は、非常時の想定を実体験でき意識高揚に極めて有効であった。普段からの声かけや挨拶の習慣が災害時に役に立つことを知ることができた。 夏祭りでの通行止め区間の4箇所での夜間照明並びに無線連絡と相まって安全に交通整理が実施できた。 総合防災訓練での必要経費を補助金で賄うことができ、450名の住民に項目の訓練を受けて頂いた。 特に、ほそごう学園の複数年が全員参加したこと、細川の消防団の参加があったこと、旧伏尾台小学校で受け入れている国際研修センターのベトナム人の若い男女25名も参加して、地域一帯が一堂に会しての防災訓練が実施できた。</p>	<p>総合防災訓練時の引率リーダーの養成のための教育カリキュラムとして、普通救命講習と備蓄資機材の使用訓練を行うこと、見識を深め、意識を高める見学会などの要望があった。 防犯、防災委員のみならず、災害時の安否声かけができる体制の確立、近所づきあいを深める活動が必要であるとの意見が多い。 地域の高齢化が進んでいるので、ほそごう学園の生徒との連携強化を種々のイベントを通じて経験できるように、地域の安全を高齢者と共に考えて買えるように計画したい。</p>	<p>地域の防犯、防災啓発に一体となって取り組んでいる点を高く評価。より一層の共助の推進に期待する。</p> <p>危機管理課 自治振興費</p>

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和元年度執行）

<p>地域行事等活動促進事業</p>	<p>350 補助金 350</p>	<p>地域の夏祭り開催負担の一部を支援する。また行事を通して、住民間の交流拡大に寄与するため、イベント開催の支援を行う。</p>	<p>子供会活動が衰退し、2丁目自治会、北自治会では子供は大勢いるが、恒例の夏まつりで子供御輿の巡行が2丁目だけできなかった。平成25年度に軽量であるが、本御輿と同様の外観を有する子供御輿を新調することが協議会で決定されて以来、子供会の再編を含めて活動の強化を図る方が種々取られた。 そして40周年記念となる夏祭りが平成26年8月23日に開催され、新調の子供御輿が大活躍した。育成者が子供会の活性化を真剣に議論できる状況となり、27年度は2丁目と3丁目の子供会が合併して子供会が無かった2丁目北自治会の子供たちが2丁目子供会に入会する強化策が取られることになった。 第40回記念の夏祭りを開催する自治会活動のうち最も負担が大きいことから、平成26年度末をもって自治会連合会が解散となり、平成27年度の夏祭りが自治会主催で行われないことになった。 しかし、住民有志による第41回夏祭り実行委員会が立ち上げられ、夏祭りが平成27年8月22日に開催された。また同じメンバーによる第42回夏祭り実行委員会は、平成28年8月27日に夏祭りを開催し、さらに平成29年8月26日に第43回夏祭りが開催された。 一方子供会は、1丁目子供会と2丁目から5丁目まで全てが統合されたわんぱく子供会の2組織になった。 平成30年度も、住民有志による第44回夏祭り実行委員会が立ち上げられて夏祭りが平成30年8月25日に開催された。</p>	<p>本協議会役員が組織した伏尾台夏祭り実行委員会主催し、本年度も8月24日に第45回伏尾台夏祭りが開催された。 当日午前8時より12時30分まで、1丁目三角公園より子供御輿が本神輿とともに巡航を始め、1丁目を巡航し、西公園で子ども御輿が4.5丁目へ引き渡され、次いで3丁目を巡航した。 午後からの夏祭り第二弾としてのスポーツ振興会主催のゲーム大会を開催した。 会場の伏小南校舎前に特設ステージを設け、午後5時からの音楽、ダンス、よさこいなどがフェスティバル形式で開催された。 続いて、打ち上げ花火が行われた後7時30分より盆踊りを主とする夏祭りが開催された。 伏尾台地区の子供はもちろん、細河地区の子供たちのみならず、石橋、池田、川西地区からも多くが参加し、ここ数年で一番の参加者があった。多くの参加者が惜しむ中、9時30分に終了した。 ほそごう秋祭りは11月9日に本協議会が支援する伏尾台合同防災訓練と合同開催された。11月3日9時30分より合同防災訓練が開催され、450名を超える参加者が7種の訓練を受けた。ほそごう学園3年生、8年生は全員参加して午後からの秋祭りの各種イベントにも参加し、国際交流センターのベトナムの若者や伏尾台地域住民との交流に貢献してくれた。</p>	<p>育成者が子供会の活性化を真剣に議論できる状況となり、協議会の委員としても子供会の新旧の校区長が毎年加入していたが、さらに複数年度にわたり活動に参加してもらっている。 夏祭り実行委員会が自治会に開催協力と参加要請を行い、さらに地域の団体、商店などに広告募集を行うなど、地域のコミュニティ作りに貢献している。</p>	<p>人数は減少したが、活動が活性化した子供会では、新調の子供御輿の巡行を望んでいるので、毎年夏祭りが開催されるようにしたい。 住民有志による夏祭り実行委員会には、さらに多くの住民の参加が期待できる新しいフェスティバル形態の夏祭りを企画して成功を収めることができたので、さらにステージを活用した企画をお願いしたい。 また、伏小南校舎の跡地活用に関連し、校舎周辺の整備の計画があるので、これと連携して、恒久的なステージを整備できる。 第44回夏祭りは、人出が多く、それと合わせてゴミが増したが、例年の校舎北側の倉庫を利用したゴミ分別が機能しなくなり、大量のゴミ処理に苦労したため、第45回は、グラウンド内にゴミ分別収集箇所を設置したことにより、分別と後処理が良好になったが、さらにゴミの減量方法を検討する必要がある。</p>	<p>事業提案に基づき、適正に予算執行されている。</p>	<p>空港・観光課 自治振興費</p>
<p>伏尾台地区活性化事業</p>	<p>300 補助金 300</p>	<p>地域住民を対象としたミニコンサートなどのイベントを実施し地域の活性化を図る。</p>	<p>毎年2～3回の音楽コンサート、1～3回の落語会を開催し、既に2回開催してきた。季節を感じさせるイベントとして地域に「ふしおたひ山びこフェスタ」と認知され定着している。 平成28年度は、野外コンサート1回、室内コンサート3回、小児科専門医との座談会1回、落語の会1回を開催した。 平成29年度は、室内コンサート3回、小児科専門医との座談会1回、落語の会2回を開催した。 平成30年度は、室内コンサート2回、落語の会2回を開催した。</p>	<p>5月18日、コミュニティプラザ内で、アプサントアンサンブル(演奏者7人エンジニア1名)による音楽ライブを行った。約70名の参加があった。 7月6日、コミュニティプラザで、桂楽珍の山びこ寄席を開催した。約90名の参加があった。 9月20日、コミュニティプラザ内で、リビオン山中の歌とトークのコンサートを開いた。約90名の参加があった。 11月17日、旧伏尾台小学校中庭で、福留歌とアプサント合奏団(演奏者7人エンジニア1名)による音楽ライブを行った。その後、パーベキュー大会開催、演奏者と歓談を行なった。約80名の参加があった。 3月上旬に落語の会を予定したが、新型コロナウイルス感染症の拡散防止のため中止した。 山びこフェスタの開催が3回になった。</p>	<p>5月18日「アプサントアンサンブル」2.0時間 70人 7月6日「落語の会」1時間 90人 9月20日「歌とトーク」1.5時間 90人 11月17日「音楽ライブ」1.5時間 80人 広報紙のとおり、3回のコンサート、1回の落語会ともに盛況であり、地域住民の憩い並びに交流を深めることができた。</p>	<p>例年通り、参加者は異口同音に伏尾台で生で音楽や落語が楽しめて良かったと言ひ、継続要望が多かったが、参加者にボランティアスタッフを呼びかけるが応募が全くない。 また、広報の仕方より参観の人数が異なること、天候に左右されやすいことなど集客に課題が多い。 地域住民の憩い並びに交流を深めることができ、定着して楽しみにされている方が増えていること、音楽のジャンルで参加される方の顔ぶれが変わることが確認できた。 3月上旬に落語の会を予定したが、新型コロナウイルス感染症の拡散防止のため中止した。今後の開催方法を模索する必要がある。</p>	<p>事業提案に基づき、適正に予算執行されている。</p>	<p>空港・観光課 自治振興費</p>
<p>ほそごう地域花いっぱい運動支援事業</p>	<p>25 補助金 25</p>	<p>地域と学校が一緒に実施する「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を細河地区とともに行う。</p>	<p>地区福祉委員会並びにほそごう地域コミュニティ推進協議会（細河地区）と共同して、ほそごう学園が行う地域花いっぱい運動、7年生と3年生がパンジーなどを育て、大きく育てる花いっぱいプロジェクト。ほそごう学園生の利用が多くなり、写真展などのイベントや山びこフェスタの開催時には高齢者が多く集うが、高齢者の居場所としては、利用者が少なかった。 平成30年度、伏尾台コミュニティプラザにおいて、高齢者が集い一緒に食事できる夕食会（タベルナCOMI）を、9月2回、1月2回、3月4回の合計9回、開催した。述べ88名の参加があった。</p>	<p>必要金額を細河と伏尾台で2分して負担することができた。本年度もパンジー、ピオラのフラグダンを約1000株を育成用土、肥料等を用いて、3年生と7年生の生徒が共同して予定どおり育成することができた。 育成したパンジー、ピオラは、平成31年12月10日に、贈呈式をほそごう学園で行い、地域の学校、保育所、老人ホーム、COMIプラザなど17施設に配り、やさしい環境作りを行うことができた。</p>	<p>ほそごう学園、地域の地区福祉委員会並びにコミュニティ推進協議会が全て共同して、3年生と7年生が行う学校、保育所、老人ホームなどへの贈呈活動を支援することができ、地域全体の活動として定着してきた。</p>	<p>義務教育学校のほそごう学園とともに、地域全体の活動としての意義が高まるため、今後とも継続して活動していきたい。</p>	<p>学校と地域住民が協働することで、地域緑化の推進と学校の環境学習にもなっている。</p>	<p>公園みどり課 自治振興費</p>
<p>高齢者の居場所づくり事業</p>	<p>200 補助金 200</p>	<p>高齢者同士が一緒に夕食を楽しめる環境を提供して、高齢者らの交流を促進し、町全体のコミュニケーション能力の向上を図る。</p>	<p>令和元年度、伏尾台コミュニティプラザにおいて、高齢者が集い一緒に食事できる夕食会（タベルナCOMI）を定期的で開催した。 9月 4日 14人 10月 2日 15人 11月 6日 13人 11月 17日 39人 パーベキュー大会 12月 4日 10人 1月 15日 7人 2月 5日 11人 2月 25日 22人 健康増進講座 3月 11日 6人 9回の開催で、137人の参加があり、夕食、昼食を共にしながら活発に情報発信がなされる種々の意見が生まれ、まちづくり、居場所づくりの多くの意見を収集することができた。</p>	<p>令和元年度、夕食会の開催時刻を季節に合わせて変えたり、夕食内容に変化をつけて開催した。食事を行うことから、参加者内でのグループ化が進み、グループ間の嗜好の違いが参加者減少を招く傾向が見られるため、さらに音楽、健康講座などのイベントとともに開催すると、参加者の増加が見られた。 根本的に、まちづくり、居場所づくりのテーマを開催日毎に選択して明確にすることで、動機付けが明確になり、広報の方法が回覧や掲示に偏ることがなく、多くの人へ広報できると考えられている。 この点は正しいと言えるが、食事が伴うことによるグループ化の問題は不可避であり、参加者減に直結するため、食事の提供方法、食事の取り方などに工夫をしなければ、コミュニケーションに偏りとマンネリ化が生じてしまう。</p>	<p>高齢者同士と一緒に、昼食や夕食を楽しめる環境を提供して、高齢者らの交流を促進するとともに、まちのこことや身の回りのことについて話し合い、高齢者の意見を伺うことで、まちづくり、居場所づくりの多くの意見を収集することができ、町全体のコミュニケーション能力を向上させることができた。</p>	<p>参加者の増加を図るため、さまざまな工夫を凝らしておられ、その成果が見られる。</p>	<p>高齢・福祉総務課 自治振興費</p>	<p>高齢・福祉総務課 自治振興費</p>

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和元年度執行）

伏尾台創生会議2020宣言広報事業	25	補助金	25	<p>伏尾台創生会議2020で採択された伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言を広報するため、新吉田橋のライトアップとサイン設備を維持管理する。</p>	<p>市の公募により平成28年1月に組織された伏尾台創生会議2020は、平成28年3月26日に伏尾台地区再生のための提言を市に提出するとともに、伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言を行なった。 この宣言を聞いた伏尾台住民が、伏尾台の入り口である「新吉田橋」のライトアップと上記の宣言を広報するサイン設備を寄付して下さることになり、平成28年11月末に設備が完成した。 市への寄付設備の贈呈が行われたが、11月からの電気代などの維持管理はコミュニティ推進協議会が行うことになった。</p>	<p>「新吉田橋」のライトアップ装置は、コンピュータ制御によるLEDライト設備で、予め設定された日没から夜明けの夜間のみ点灯されるため、比較的安価な電気代で維持できた。 また、住民の手で、伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言が書かれた横断幕を点検することができた。退色は少しであるが、汚れが目立つようになっている。</p>	<p>新吉田橋の欄干に設けられた横断幕は、国道423号線の北行き車線から容易に視認できるため、伏尾台地区がここにあること、子育てにやさしいまち宣言した地区であることを国道往來者に広報できている。 また、夕方から夜間に帰宅する伏尾台住民は、ライトアップされた新吉田橋を見ることで、我が家に帰ってきたことを実感できると、好評である。</p>		<p>協議会としては、電気代の支払いのみの管理しかできない。住民にとっては、横断幕の点検はできるが、その清掃や修繕などは不可能である。特に、横断幕を取り付けている部分の橋の欄干がかなり汚れている。また、ライトアップ装置の点検維持も住民には行うことができないが、故障等は発生していない。</p>	<p>新吉田橋のライトアップにより、伏尾台地区のにぎわい創出に寄与している。</p> <p>道路・河川課 自治振興費</p>
計	6,466			事業提案限度額 12,241千円	次年度繰越金額 5,775千円					
合 計	94,330			事業提案限度額 135,755千円	次年度繰越金額 41,425千円					